

阪南市埋蔵文化財報告 XXIX

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 XVII

2002年

阪南市教育委員会

はしがき

阪南市は大阪府の南部に位置し、近年大規模な住宅開発事業が行われ、大阪のベッドタウンとして人口の増加が続いている。

本書は当教育委員会が国庫補助事業として埋蔵文化財包蔵地内で個人住宅建築工事に先立つて実施した発掘調査の報告書です。「記録保存」のためわずか数m²程度の小規模な調査がほとんどでしたが、その遺跡の特徴の一端を確認できる調査で、あらためて、今回のような調査の必要性を確信するものがありました。

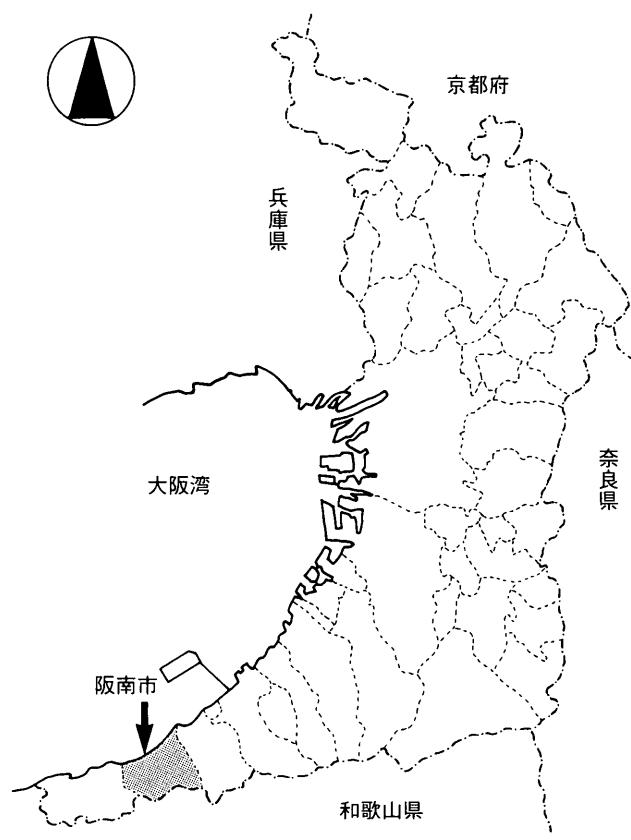
昨年度の平成12年10月4日に阪南市文化財保護条例が制定されました。埋蔵文化財をはじめとする市域の文化財を私たち自治体が保存し活用していくかなければいけないことを再認識しました。

最後に調査に協力してくださいました関係者に感謝いたしますとともに、今後とも本市の文化財保護にご尽力を賜りますよう、お願ひいたします。

2002年3月

阪南市教育委員会

教育長 川村一郎



第1図 阪南市位置図

例　　言

1. 本書は、阪南市教育委員会が、平成13年度国庫補助事業として計画し、生涯学習推進課が担当した阪南市内遺跡発掘調査概要報告書である。
2. 調査は、阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課三好義三、田中早苗、上野仁及び松本武志を担当として実施した。
3. 本書内に示した標高は、T.P.であり、方位は既製の地形図などを使用したものをおいて磁北である。
4. 調査にあたっては、調査地の土地所有者等関係者各位の理解と協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。
5. 本書の執筆・編集は、上記の調査担当者が行った。また、実測図等の作成は、下記の調査従事者による。
6. 本調査における記録は、実測図、写真、カラースライド等に保存されている。当教育委員会にて保管しているので、広く活用されたい。

(調査従事者)

宇沢克之、辻野 勝、岡本利市、平坂博司、上野高男、橋本松雄、太田敏治、坂本吉成、溝上 満、和田旬世、井上祥子、井上 進、谷口紗枝子、田中達也、芝 尚幸、中寺幸子、上田妙子

目　　次

第1章 歴史的環境	1
第2章 調査の成果	
第1節 尾崎海岸遺跡	
(1) 00-2区	4
(2) 01-1区	4
第2節 下出遺跡	
(1) 01-1区	8
第3節 馬川遺跡	
(1) 01-1区	8
(2) 01-2区	9
第4節 黒田南遺跡	
(1) 01-2区	11
(2) 01-5区	12
第5節 神光寺（蓮池）遺跡	
(1) 01-1区	12
(2) 01-3区	14
(3) 01-5区	14
第6節 箱作今池遺跡	
(1) 01-1区	15
(2) 01-2区	18
第7節 箱作西遺跡	
(1) 01-1区	20
第8節 田山東遺跡	
(1) 00-2区	20
第9節 田山遺跡	
(1) 01-1区	21

第1章 歴史的環境

阪南市は、大阪府の南西部に位置する。市域は東西・南北にそれぞれ約8kmを測り、面積約36km²である。阪南市の南側には和泉山脈、北側は大阪湾に接する位置にある。気候は瀬戸内式気候で、比較的雨量が少なく、温暖な地域である。以下に阪南市の歴史的変遷を遺構・遺物を中心に述べていきたい。

縄文時代

この時代の住居跡は確認されていないが、比較的広範囲に調査が行われた向出遺跡では、後期～晚期の土坑群が検出されており、その中には、結晶片岩製の石棒を伴った土坑が検出されている。また、交流範囲の広さが窺える東北地方や東海地方の影響を受けた土器が出土している。

市内から出土している石器には、前述した向出遺跡から石刀、石剣、石棒等、神光寺（蓮池）遺跡から草創期所産の有茎尖頭器、向出・玉田山・自然田・貝掛・箱作今池・田山遺跡から石鏃が出土している。その他の遺跡として、後期～晚期の土器が出土している馬川北遺跡、晚期の土器が出土している尾崎清水・高田遺跡があげられる。

弥生時代

尾崎海岸遺跡から後期末の製塩炉跡が確認されている。向出・向山遺跡では後期の竪穴住居跡が確認されている。神光寺（蓮池）遺跡では、中期の方形周溝墓が検出されており、石包丁、石鏃などが出でている。その他の遺跡として、前期～後期の土器が出土している馬川遺跡、後期の土器が出土している馬川北・下出北・鳥取南・久保田・亀川・自然田遺跡があげられる。

古墳時代

市内では、中期から古墳築造がおこなわれており、皿田池古墳、帆立貝式前方後円墳の箱作古墳が築造されたようだ、後期の古墳には上方下円墳という特殊な形態をもつ1号墳を含む玉田山古墳群や塚谷古墳群、高田山古墳群があげられる。調査が実施された玉田山1号墳の石室内からは須恵器をはじめとして、琥珀製棗玉、ガラス製丸玉・小玉、金環、銀環などの副葬品が出土している。また、竪穴住居跡が向出・亀川遺跡で確認されている。亀川遺跡で検出されたの中には、製塩土器が出土しているピットをもつものや竈が付随したものがあり、その他の遺構では滑石製玉類がまとまって出土している。

奈良時代

波有手遺跡では、多数の製塩土器、墨書き土器が出土している。この波有手遺跡の北の海岸部では、この時代に存在していたと伝わる道弘寺の存在がうかがえる瓦窯跡が確認されている。

貝掛遺跡では、奈良三彩八曲長壺を伴った土坑や掘立柱建物跡を検出している。箱作今池遺跡では、掘立柱建物跡が確認されている。田山遺跡では、掘立柱建物跡、井戸が検出されており、遺物は円面硯、墨書き土器が出土している。

平安時代

この時代の明確な遺構は検出されていないが、当時、存在していた寺院の一端を窺わせるものとして、平野寺（長樂寺）跡、馬川・下出・向出・神光寺（蓮池）・金剛寺・箱作西遺跡から当該期の瓦が出土している。

中世

箱作今池遺跡や田山遺跡など海岸に近い遺跡において特徴的のは、漁労に関する遺物である蛸壺や土錘の出土量が比較的多いことである。蛸壺を焼成していたと思われる遺構が、箱作今池・田山東・馬川遺跡において検出されている。また、この時代は全国的に輸入陶磁器の出土量が増え、当市内では箱作今池遺跡、田山遺跡がその代表的な遺跡としてあげられる。箱作今池遺跡では、中世寺院の存在を窺わせる風鐸の1部である風招が出土している。

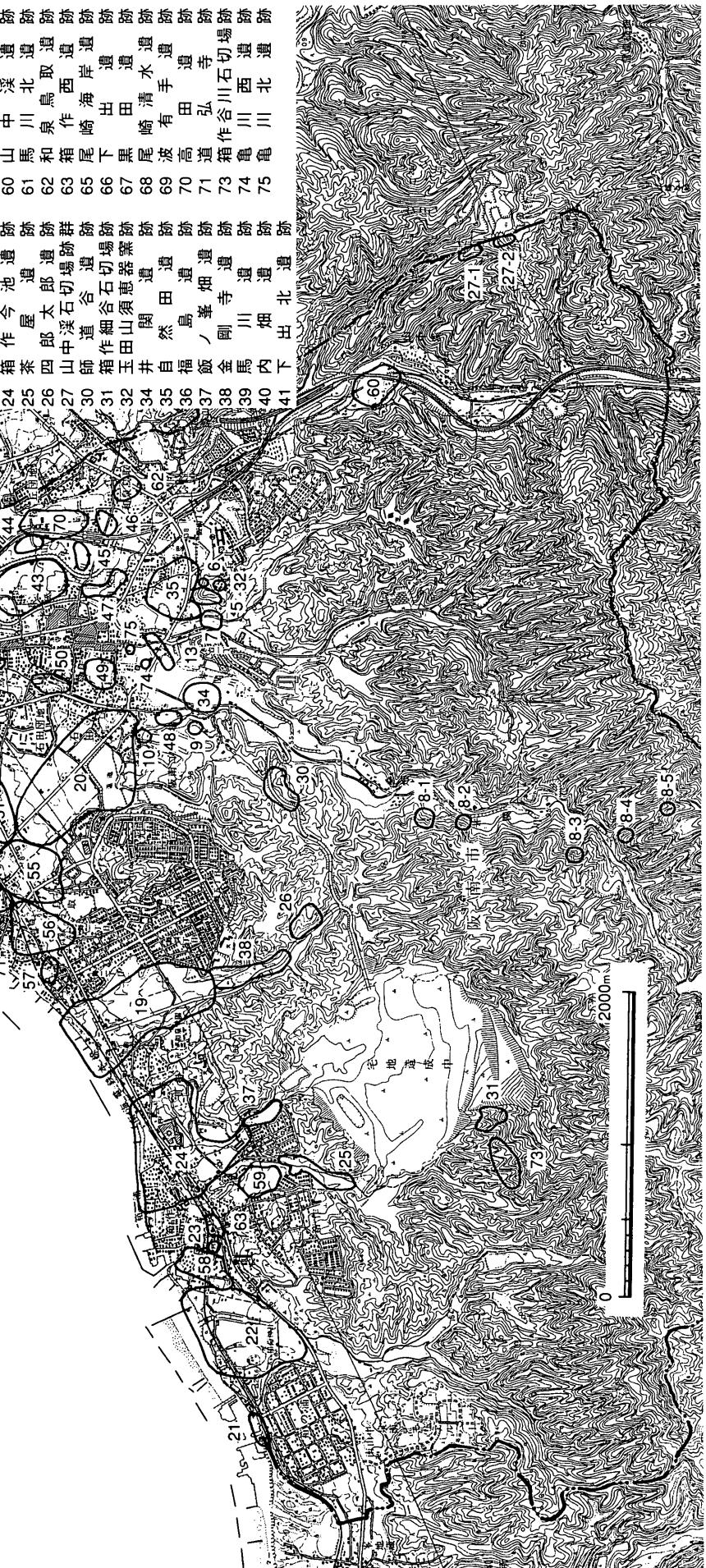
近世

この時期、市域での石工の活躍が古文書等の史料からわかる。発掘調査からは箱作ミノバ石切場跡、箱作細谷石切場跡が確認されている。箱作今池遺跡では、和泉砂岩製の五輪塔が畔の土留めに転用されている例もみられる。当時の石造物は、現在も市内の至る所で確認することができる。また、製糖業も盛んにおこなわれていたようで、使用されていた漏瓦が馬川・箱作今池遺跡等で確認されている。

集落跡は、貝掛遺跡、飯ノ峯畠遺跡で確認されている。近世期に街道沿いでは、町場が形成されていたことが当時の史料からわかり、現在でも街道沿いには当時を想定できる町並みが残されている。

以上に述べたのが、埋蔵文化財の調査成果を中心とした歴史的環境の概要である。以下に今年度の国庫補助事業にともなう調査成果を報告する。

跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡
 遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺
 田西南谷寺南西北南北取遺東南深北鳥西岸遺遺水手
 堂出保田田山口烟方田田取取鳥山作中川泉作崎有田弘川石切場
 室向久高高向小西正黒黒鳥鳥西戎山箱馬和箱尾下黒尾波高道箱龜龜
 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75
 墳跡群跡跡群跡跡群跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡
 古池(長榮寺)遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺
 田山山山山山山山山山山山山山山山山山山山山山山山
 田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田
 皿野田平玉玉寺桑石重以淡太神本附掛(運池)加茂茶
 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41
 黒龜三水貝神光寺山山山山山山山山山山山山山山山山
 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41
 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41
 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41
 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41
 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41
 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41
 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41
 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41
 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41
 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41
 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41
 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41
 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41
 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41
 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41
 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41
 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41
 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41
 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41
 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41
 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41
 33 34 35 36 37 38 39 40 41
 34 35 36 37 38 39 40 41
 35 36 37 38 39 40 41
 36 37 38 39 40 41
 37 38 39 40 41
 38 39 40 41
 39 40 41
 40 41



第2図 阪南市埋蔵文化財分布図

第2章 調査の成果

第1節 尾崎海岸遺跡

(1) 尾崎海岸遺跡 00-2区

a. 調査の概要 (第3~6図)

調査地は、尾崎海岸遺跡の中央部の海岸線より数十mの場所に位置する。

調査は、調査地内西部に2.5m×1.5mのトレンチを設定し実施した。

基本層序は、第1層盛土、第2層淡黄茶色砂質土、第3層暗灰色砂質土、第4層暗灰黄色砂質土、第5層明黃灰色砂、第6層黃灰色砂の地山であった。

遺構は検出されなかったが、遺物は、包含層（第2層～第5層）から、蛸壺・管状土錐をはじめとする土師質土器、陶磁器、近世瓦等が出土した。

b. 遺物 (第6図)

1～6は土師質土器で、1は蛸壺、2～6は管状土錐である。7・8は陶器で、7は京焼風皿、8は鍋である。9は磁器のそば猪口である。1は第5層から出土し、2～9は第2～4層から出土した。

(2) 尾崎海岸遺跡 01-1区

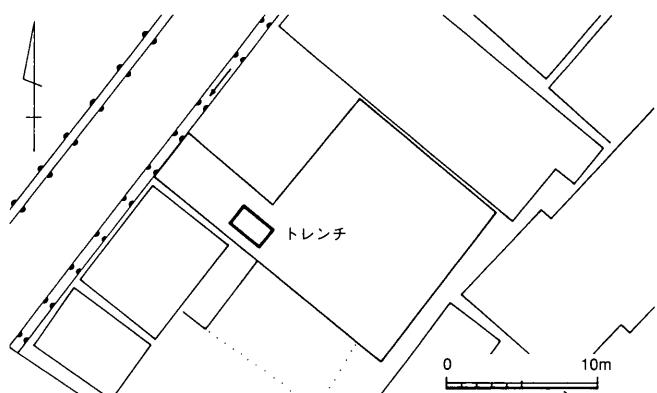
a. 調査の概要 (第7~11図)

調査区は、尾崎海岸遺跡の西部に位置する。調査は、調査地内中央部に3.7m×2.2mのトレンチを設定し実施した。

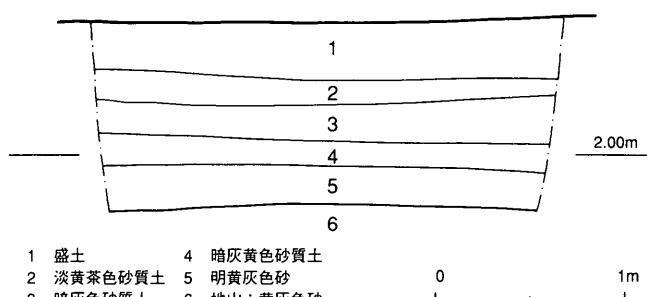
基本層序は、第1層盛土、第2層淡黄灰色砂質土、第3層暗茶灰色砂質土、第4層茶灰色砂質土、第5層明茶灰色砂の地山であった。



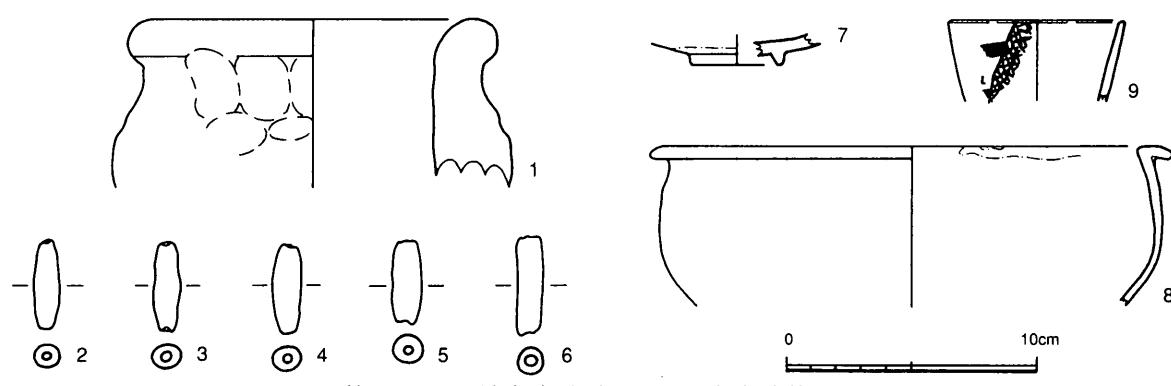
第3図 尾崎海岸遺跡調査区位置図



第4図 尾崎海岸遺跡00-2区 トレンチ位置図



第5図 尾崎海岸遺跡00-2区 トレンチ西側断面図



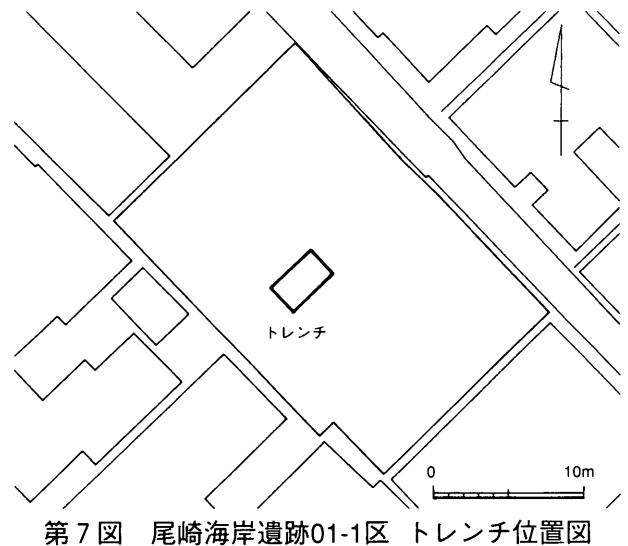
第6図 尾崎海岸遺跡00-2区 出土遺物

遺構は検出されなかったが、遺物は、第2・3層から、蛸壺・管状土錘をはじめとする土師質土器、近世瓦、陶器、磁器が出土した。

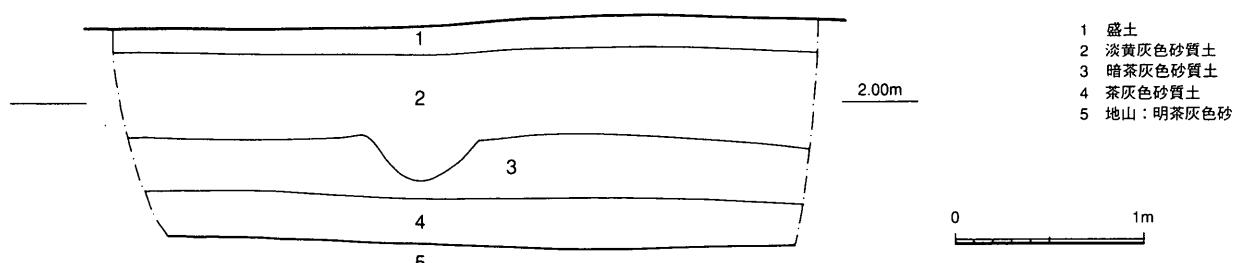
b. 遺物（第9～11図）

1～22は土師質土器で、1～7は蛸壺、8は有溝土錘、9～15は管状土錘、16・17はその口縁部等に残る煤痕から灯明皿と思われる。18は鍋または炮烙で口縁部にふきこぼれ痕がみられる。19は火鉢、20は漏瓦、21・22は土人形である。

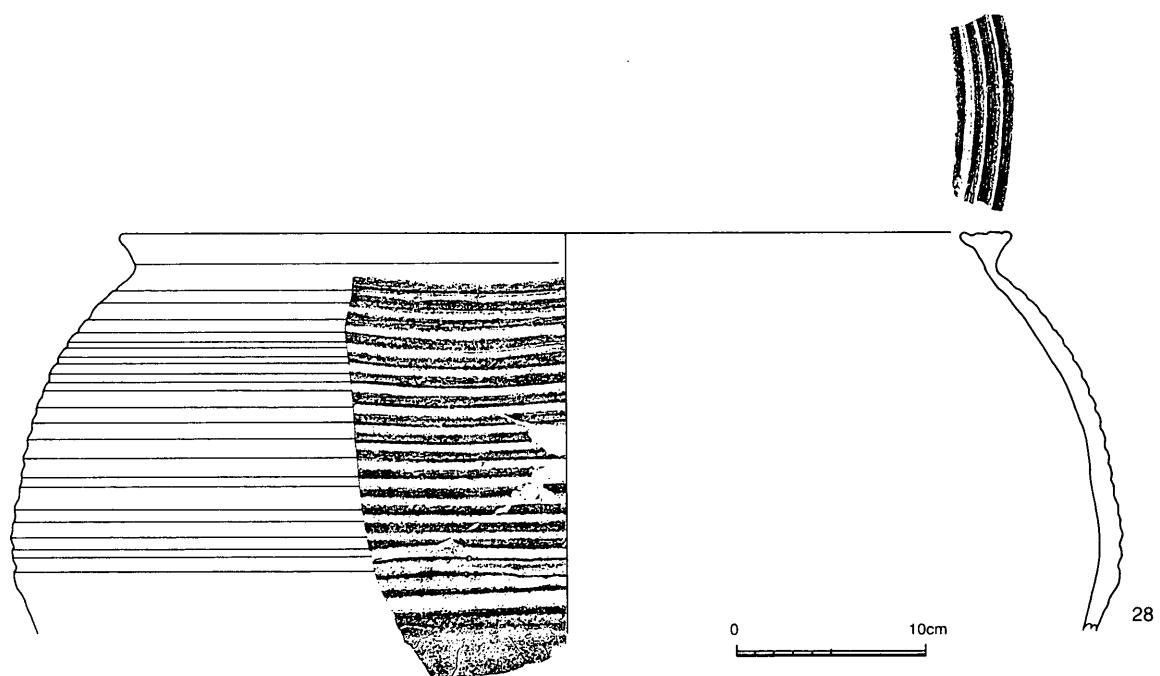
23は白磁の皿、24～27は擂鉢で、うち、24～26は備前、27は堺産である。28は丹波の甕である。29～40は唐津で、29～33は碗、34～39は皿である。なお、38・39は見込み部分に砂目積痕がみられる。40は盤と思われる。41は瀬戸の皿、42は京焼風の碗で、43～46は陶器で、43は鉢、44・45は壺、46は鬢盤である。47～49は伊万里で、47は碗蓋、48は碗、49は皿である。50・51は波佐見で、50は碗、51は皿である。52は磁器の碗、53・54は道具瓦である。55は砥石である。3・8・10・12・13・17～22・24・27・30～



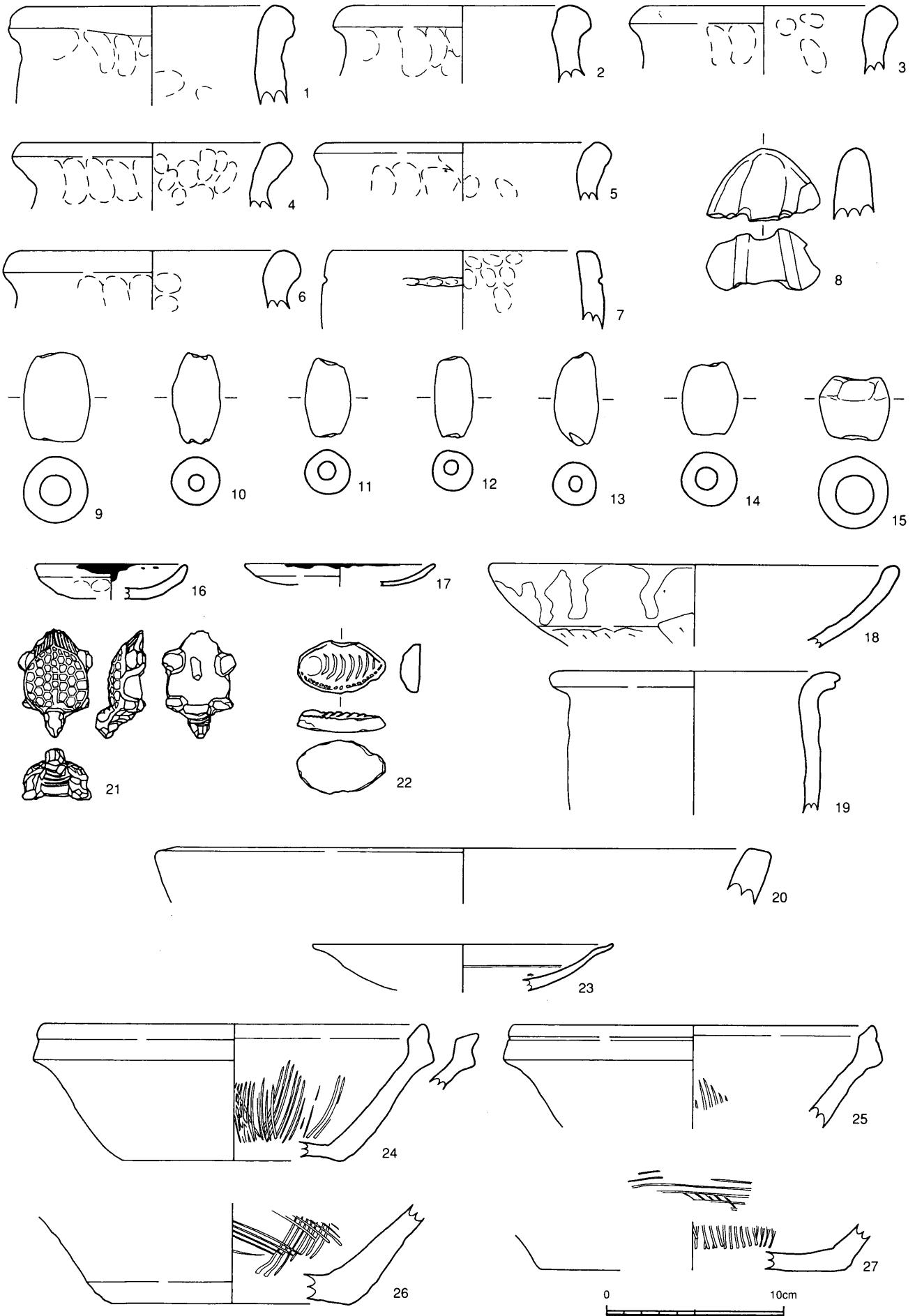
第7図 尾崎海岸遺跡01-1区 トレンチ位置図



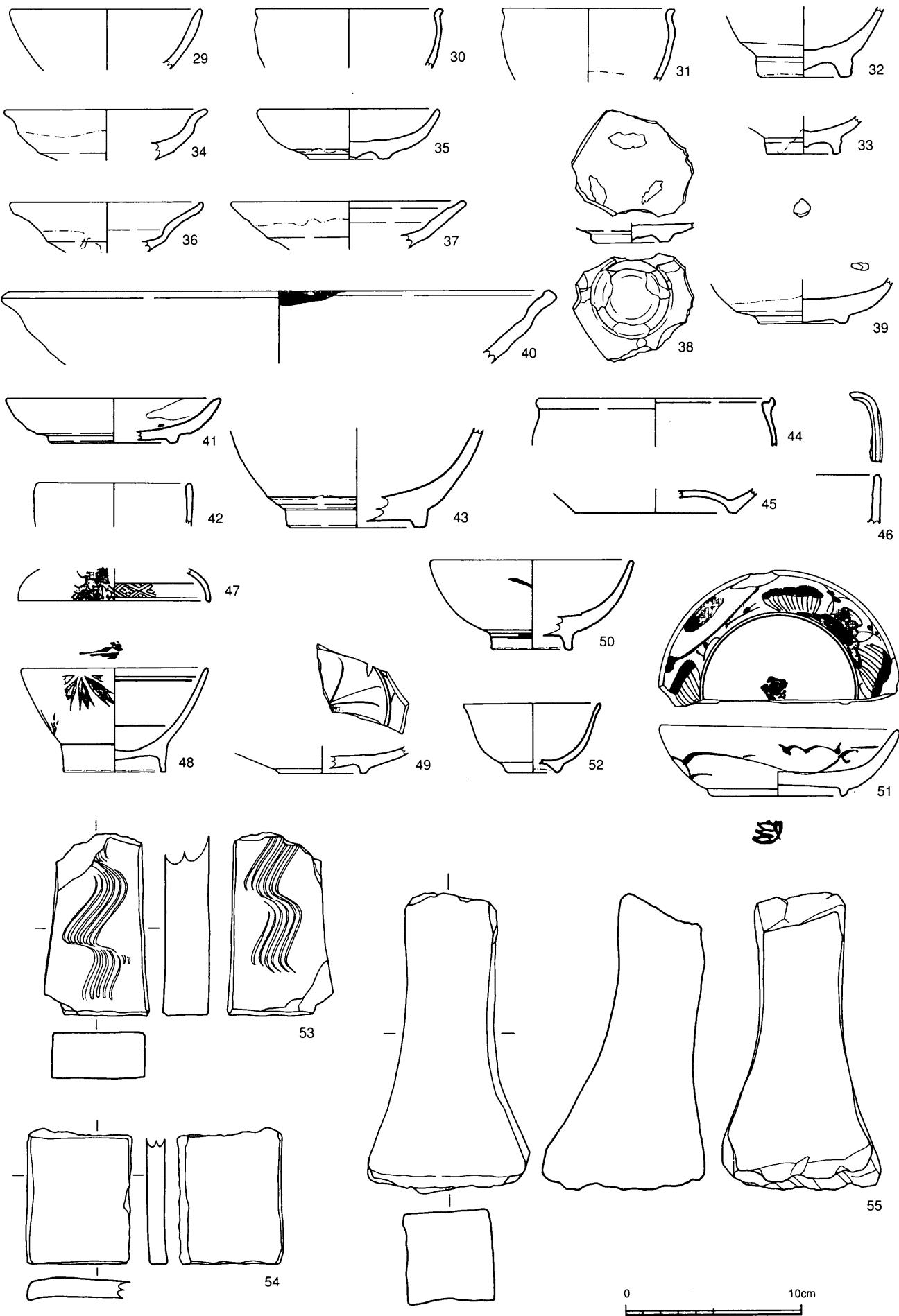
第8図 尾崎海岸遺跡01-1区 トレンチ南側断面図



第10図 尾崎海岸遺跡01-1区 出土遺物（2）



第9図 尾崎海岸遺跡01-1区 出土遺物（1）



第11図 尾崎海岸遺跡01-1区 出土遺物 (3)

33・38～40・42～55は第2層から出土し、それ以外は第3層から出土した。

第2節 下出遺跡

(1) 下出遺跡01-1区

a. 調査の概要（第12～14図）

調査区は、下出遺跡の北端部に位置する。

調査は、調査地内西部に2.5m×1.5mのトレンチを設定し実施した。

基本層序は、第1層盛土、第2層暗灰色土、第3層茶褐色土、第4層暗茶色礫混土の地山であった。

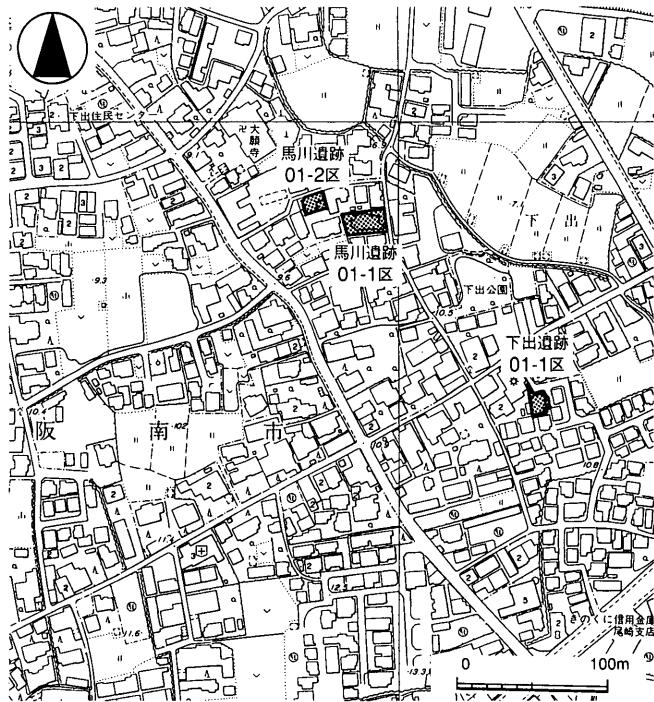
遺構は土坑を検出した。遺物は、第2層から土師質土器、第3層から陶器が出土したが、小片のため、図化し得なかった。

b. 遺構（第14図）

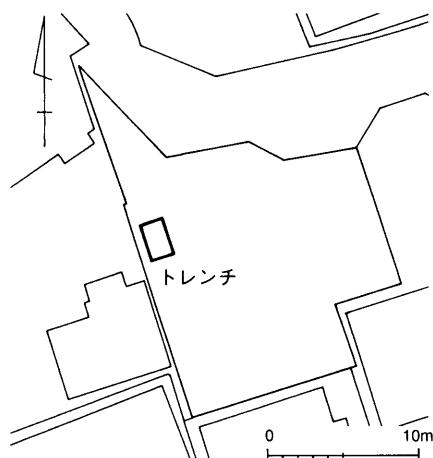
－土坑－

トレンチ南東部の地山上面で検出した。深さ20cmを測る。

埋土は、暗茶色土、明茶色土で、遺物は出土しなかった。



第12図 下出・馬川遺跡調査区位置図



第13図 下出遺跡01-1区 トレンチ位置図

第3節 馬川遺跡

(1) 馬川遺跡01-1区

a. 調査の概要（第12・15～17図）

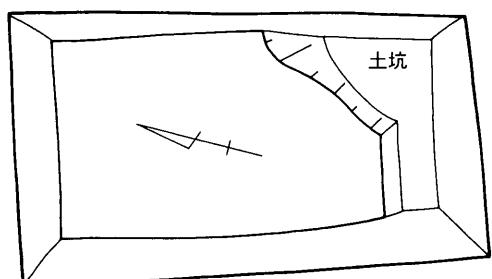
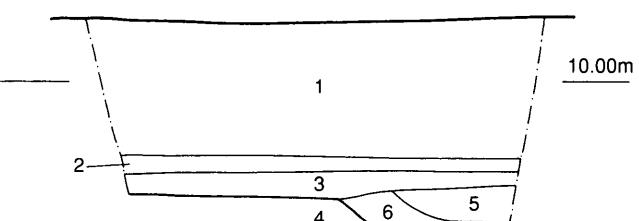
調査地は、馬川遺跡の北部に位置する。

調査は調査区内西部に9.0m×1.0mのトレンチを2ヶ所設定し、実施した。

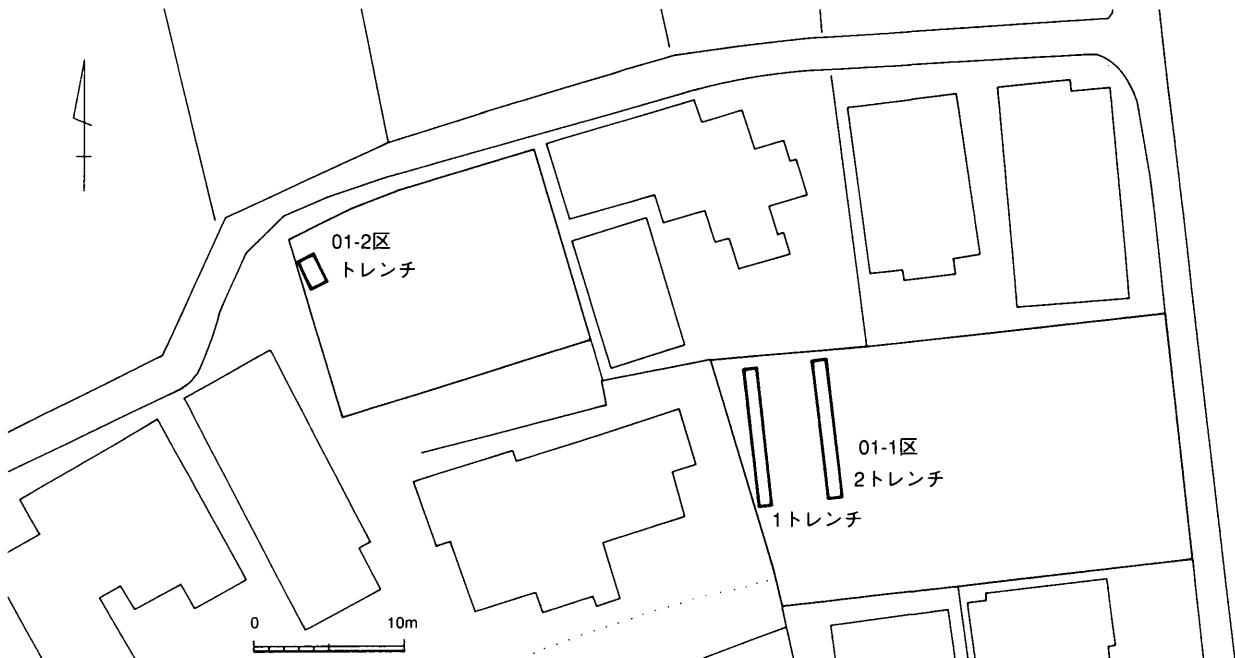
基本層序は、第1層盛土、第2層灰茶色土、第3層暗灰色土、第4層淡茶色土の地山であった。

調査は、今回の工事で掘削が及ぶ部分（第3層）までであった。遺構は第2層上面、第3層上面では検出されなかった。今回の調査は地山まで調査を実施しなかったため、最終面では遺構を検出するにいたらなかった。

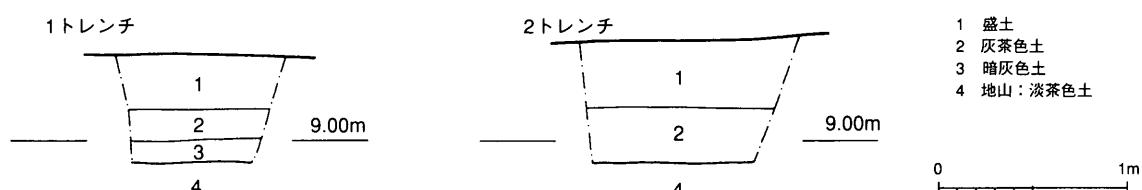
遺物は、第2・3層から土師質土器、陶器、磁器、近世瓦が出土した。



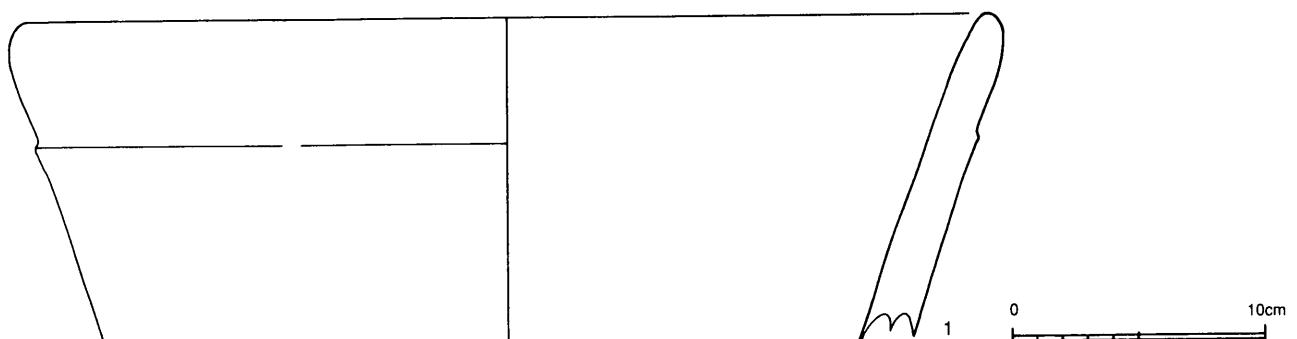
第14図 下出遺跡01-1区 トレンチ平面図・断面図



第15図 馬川遺跡01-1区・01-2区 トレンチ位置図



第16図 馬川遺跡01-1区 1トレンチ・2トレンチ北側断面図



第17図 馬川遺跡01-1区 出土遺物

b. 遺物 (第17図)

1は製糖に用いた土師質の漏瓦で、第2層から出土した。

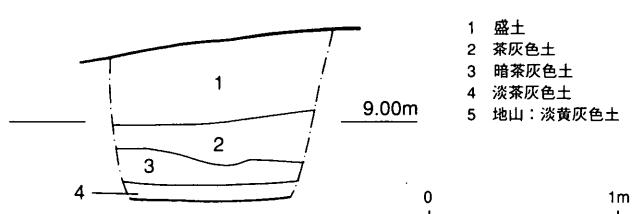
(2) 馬川遺跡01-2区

a. 調査の概要 (第12・15・18・19図)

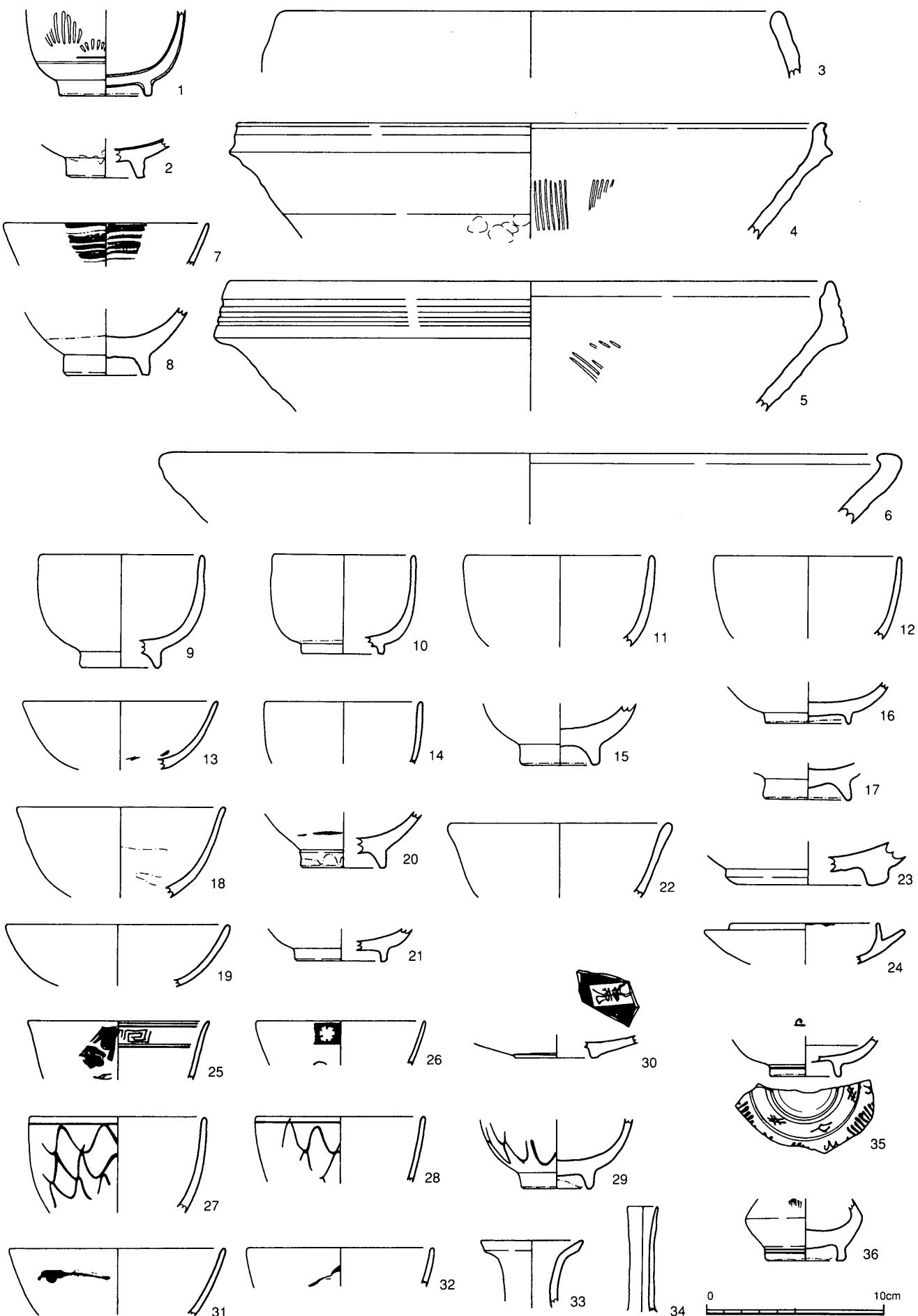
調査区は、馬川遺跡の西部に位置する。

調査は、調査地内西部に2.0m×1.2mのトレンチを設定し実施した。

基本層序は、第1層盛土、第2層茶灰色土、第3層暗茶灰色土、第4層淡茶灰色土、第5層淡黄灰色土の地山であった。遺構は検出されなかったが、遺物は第2層から、土師質土器、中世瓦、陶器、磁器、近世瓦が出土した。



第18図 馬川遺跡01-2区 トレンチ北側断面図



第19図 馬川遺跡01-2区 出土遺物

b. 遺物（第19図）

遺物は先で述べたとおり、第2層のみの出土である。

1・2は青磁の碗、3は土師質土器の炮
焰、4～25は陶器で、4は丹波の擂鉢、5
は備前の擂鉢、6は備前の鉢、7・8は唐
津の碗、9～17は京焼風の碗、18～21は肥
前系の碗である。22は碗、23は盤、24は灯
明皿。25～36は磁器で、25～30は伊万里の
碗と皿、31・32は碗、33・34は瓶である。
35・36は瀬戸で35は碗、36は瓶である。

第4節 黑田南遺跡

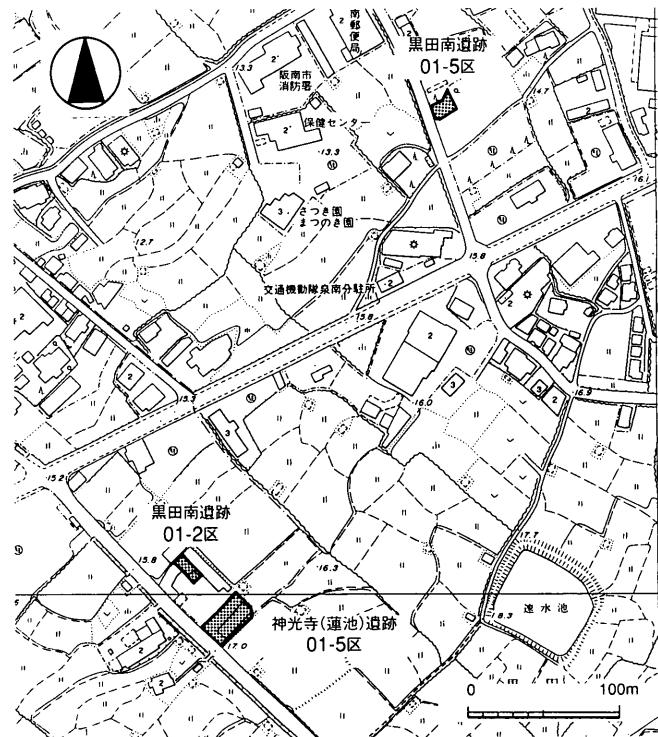
(1) 黒田南遺跡 01—2区

a. 調査の概要（第20～22図）

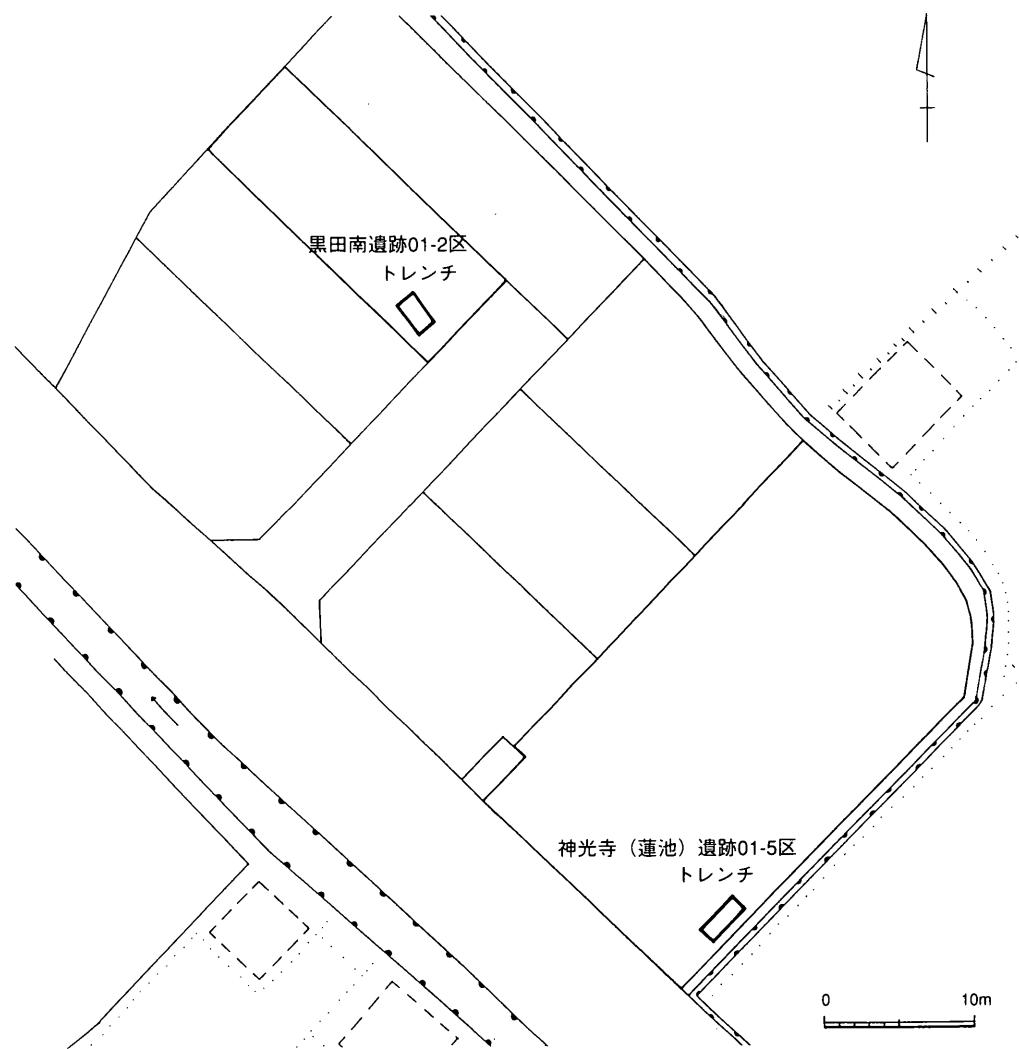
調査区は、黒田南遺跡の西端部に位置する。調査区の隣接地では、以前に調査が実施され、中世期の遺構、瓦器をはじめとする遺物が検出されている。

調査は、調査地内南部に2.4m×1.5mのトレンチを設定し実施した。

基本層序は、
第1層盛土、第
2層耕作土、第
3層青灰色土、
第4層橙色土、
第5層淡黄灰色
粘質土の地山で
あった。遺構、
遺物とともに検出
されなかった。



第20図 墨田南・神光寺（蓮池）遺跡調査区位置図



第21図 黒田南遺跡01-2区・神光寺（蓮池）遺跡01-5区 トレンチ位置図

(2) 黒田南遺跡 01—5区

a. 調査の概要 (第20・21・23~25図)

調査区は、黒田南遺跡の北東端部に位置する。

調査は、調査地内に1トレンチ (9.0m×1.0m)、2トレンチ (2.5m×1.5m) を設定し実施した。

基本層序は、第1層盛土、第2層淡茶色粘質土、第3層暗灰色粘質土、第4層暗茶黄色粘質土、第5層暗灰色粘質土、第6層橙灰色粘土の地山であった。

遺構は、溝を検出した。遺物は、第2層から土師器、瓦器、土師質土器、第3層から土師器、瓦器、第5層から土師器、瓦器、陶器が出土した。

b. 遺構 (第24図)

一溝—

2トレンチの地山面で検出した。深さは85cm以上を測る。

埋土は、黄灰茶色砂質土、暗灰色砂質土、濃灰色砂質土であった。埋土の暗灰色砂質土から、弥生土器、土師器が出土した。いずれも小片のため図化し得なかった。

c. 遺物 (第25図)

1は土師質土器の小皿で、2は備前で口縁部と思われるが器種は不明である。1・2ともに1トレンチより出土した。

第5節 神光寺（蓮池）遺跡

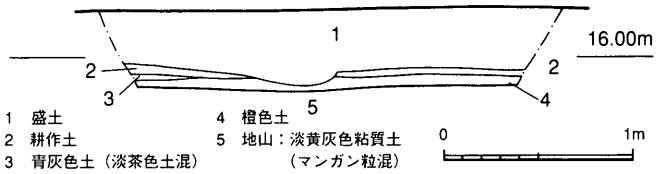
(1) 神光寺（蓮池）遺跡 01—1区

a. 調査の概要 (第26~29図)

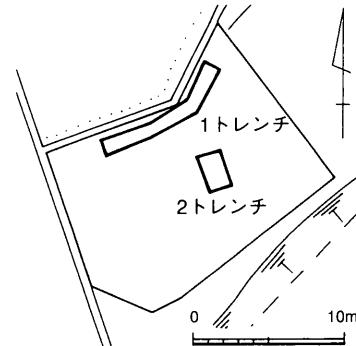
調査地は、神光寺（蓮池）遺跡の南東部に位置する。

調査は、調査区内に15.0m×1.6mのトレンチを設定して実施した。

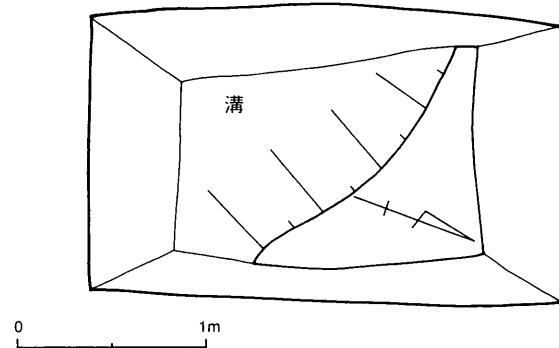
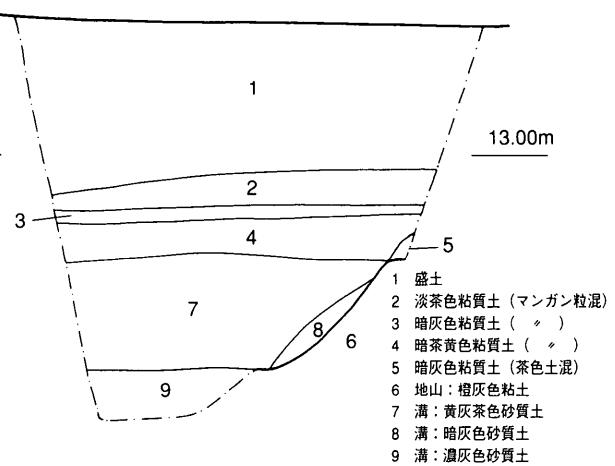
基本層序は、第1層淡灰橙色土、第2層灰茶橙色土、第3層淡灰橙茶色土、第4層暗茶黑色粘土の地山に至る。



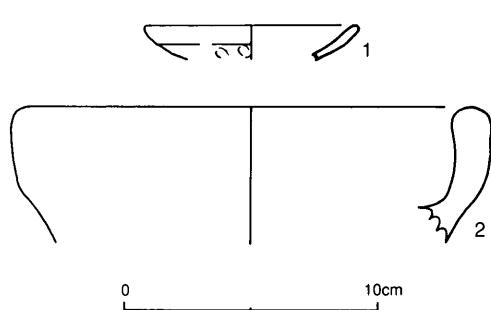
第22図 黒田南遺跡01-2区 トレンチ東側断面図



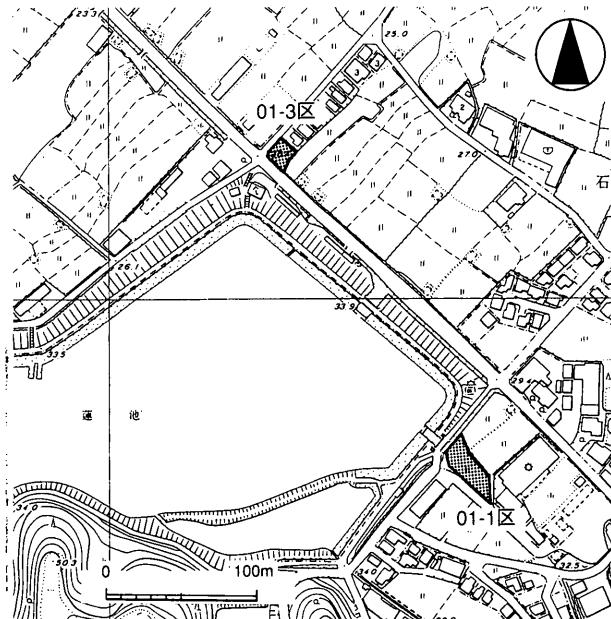
第23図 黒田南遺跡01-5区 トレンチ位置図



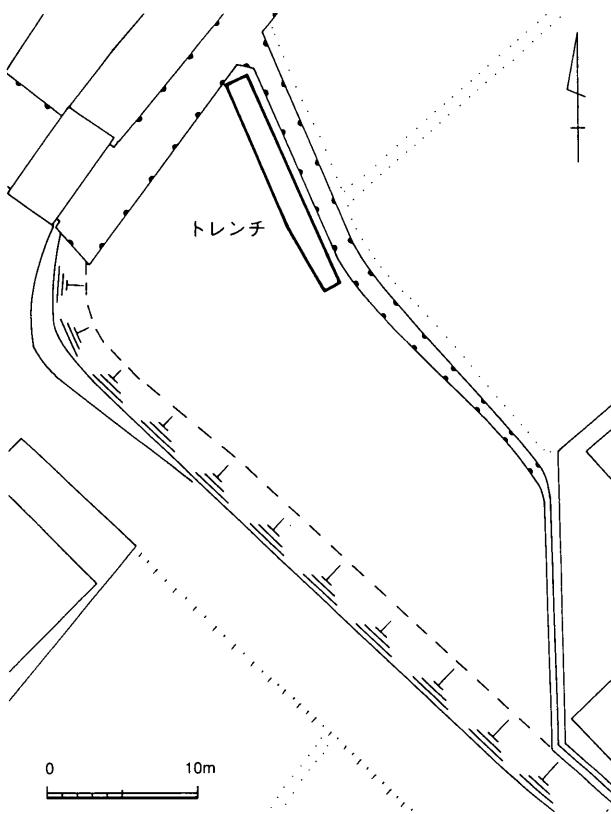
第24図 黒田南遺跡01-5区 2トレンチ平面図・断面図



第25図 黒田南遺跡01-5区 出土遺物



第26図 神光寺（蓮池）遺跡調査区位置図



第27図 神光寺（蓮池）遺跡01-1区 トレンチ位置図

b. 遺構（第28図）

一溝一

調査区内の南から北に向かって伸びている溝を第4層上面で検出している。溝の規模は幅1.6m以上、深さ0.16~0.6m以上、長さは15.0m以上を測る。溝から磨製石器、弥生高環の脚部、瓦器壺等が出土している。出土遺物から中世以前の溝と考えられる。



第28図 神光寺（蓮池）遺跡01-1区 トレンチ平面図・断面図

c. 遺物 (第29図)

1は磨製石器で石包丁と思われる。2は弥生土器の壺の底部である。3・4は瓦器で、3は塊、4は小皿である。5は陶器の甕である。1～3は溝から、4・5は包含層から出土した。

(2) 神光寺 (蓮池) 遺跡 01—3区

a. 調査の概要 (第26・30・31図)

本調査区は、神光寺 (蓮池) 遺跡のほぼ中央部に位置する。

調査は、調査地の西端部に3.5m×2.0mのトレンチを設定し実施した。

基本層序は、盛土及び耕作土以下に青灰色砂礫、褐茶色粘土層の堆積がみられた。褐茶色粘土層は、周辺地の調査状況から地山と思われる。遺物は出土しておらず、遺構も検出されなかった。

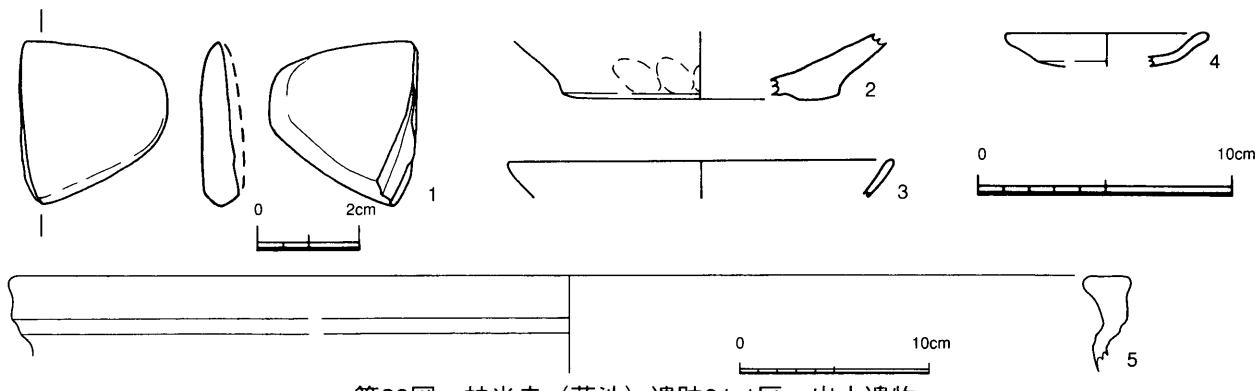
(3) 神光寺 (蓮池) 遺跡 01—5区

a. 調査の概要 (第20・21図)

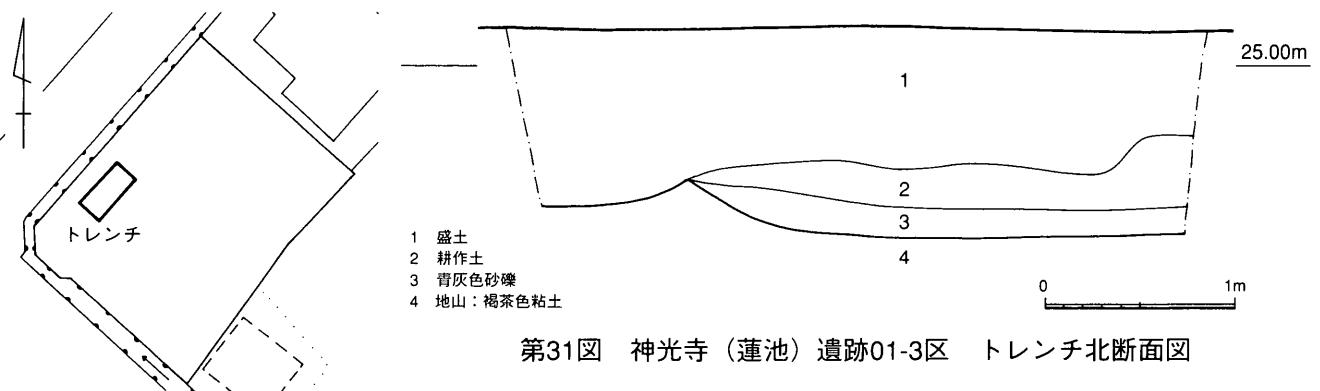
調査区は、神光寺 (蓮池) 遺跡の北西端部の黒田南遺跡01-2区に隣接する。

調査は、調査地内西部に3.0m×1.5mのトレンチを設定し実施した。

基本層序は、第1層盛土、第2層淡茶灰色粘質土の地山であった。調査区は既に包含層、地山ともに削平を受けているよう、遺構、遺物ともに検出されなかった。



第29図 神光寺 (蓮池) 遺跡01-1区 出土遺物



第31図 神光寺 (蓮池) 遺跡01-3区 トレンチ北断面図

第30図 神光寺 (蓮池) 遺跡 01-3区

トレンチ位置図

第6節 箱作今池遺跡

(1) 箱作今池遺跡 01—1区

a. 調査の概要（第32～37図）

本調査区は、箱作今池遺跡の中央部に位置する。調査区の東側では、奈良時代の堀立柱建物が数棟検出されている。隣接地では、中世期の遺構、遺物が検出している。

今回の調査は、調査区内にA～Lのトレーニチを設定し実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層茶灰色土、第3層淡黄灰色土、第4層灰白色砂質土、第5層黄色礫混土の地山であった。

b. 遺構（第34図）

地山上面でピット1～4を検出した。いずれもその埋土から遺物は出土しなかった。

—ピット1—

Fトレーニチの北西部で検出され、径40cm、深さ10cmを測る。埋土は灰色土であった。

—ピット2—

Hトレーニチの西部で検出され、径40cm、深さ12cmを測る。埋土は暗茶色土であった。

—ピット3・4—

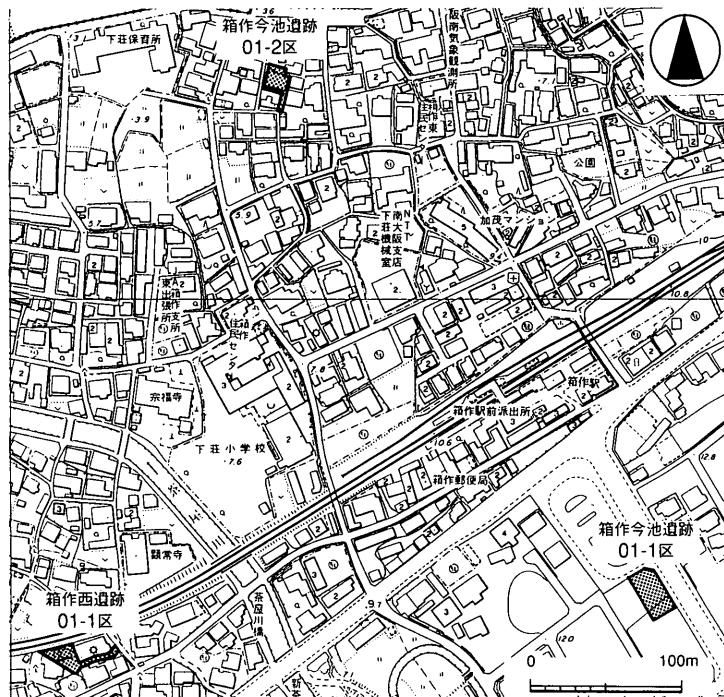
いずれのピットも、Lトレーニチの西部で検出され、径70cm、深さ5～8cmを測る。埋土は暗茶灰色砂質土であった。

c. 遺物（第35～37図）

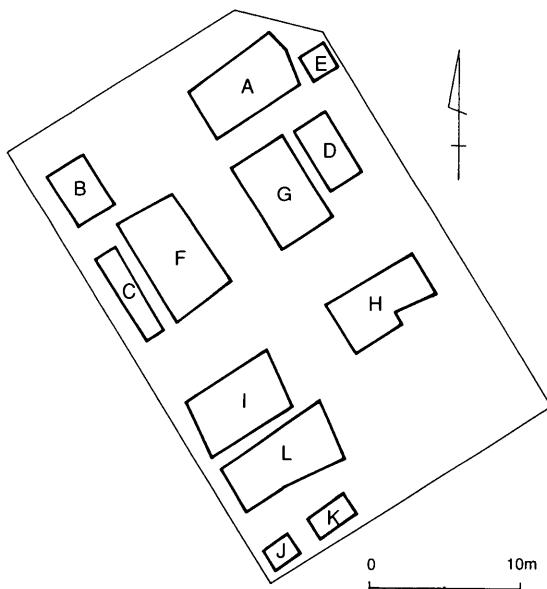
遺物は、包含層（第2～4層）から、基本的にサヌカイト、土師器、須恵器、瓦器、土師質土器等が出土している。それ以外の遺物は、第2層から瓦質土器、白土器、白磁、第3層から製塩土器、黒色土器、瓦質有孔土錐、青磁、第4層から磨製石器、製塩土器、黒色土器等が出土した。Iトレーニチの基本層序の第2層と第3層の間に存在する暗灰色砂質土から白磁、瓦器、土師質土器等が出土した。

図化し得たのは以下の42点であった。

1はサヌカイト製の石鏃、2は磨製石器で石斧である。1・2は第4層から出土した。3～6は須恵器で、3・4は壺蓋、3は第3層、4は第4層から出土した。5・6は壺身で第2層から出土した。7・8は製塩土器で第4層から出土した。9～13は土師質土器で、9・

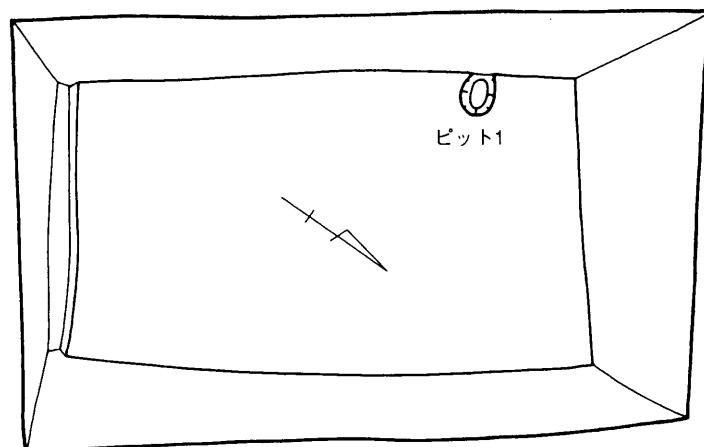
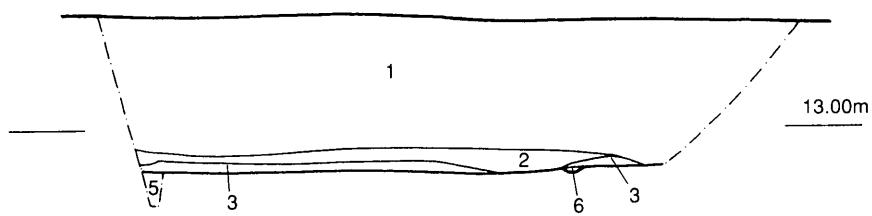


第32図 箱作今池・箱作西遺跡調査区位置図

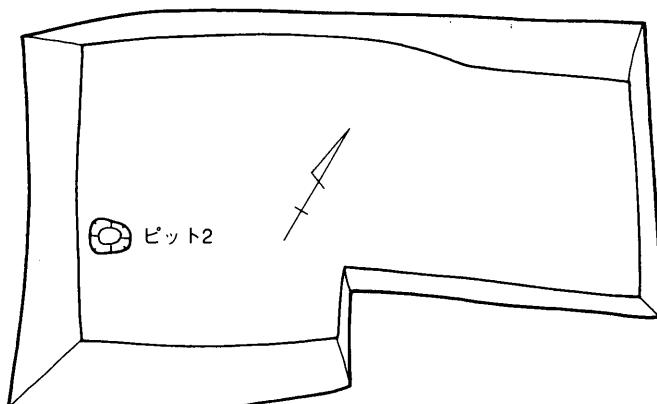
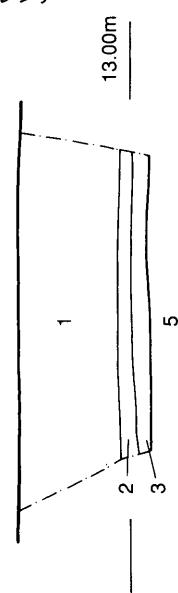


第33図 箱作今池遺跡01-1区 トレーニチ位置図

Fトレーニチ

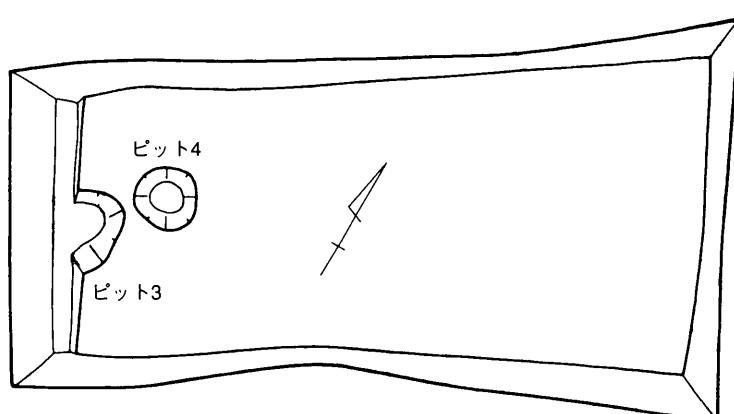
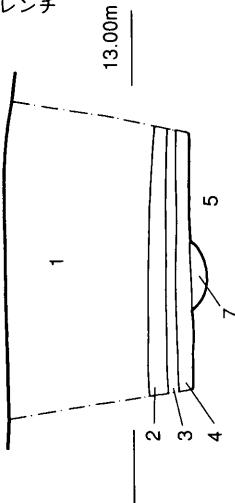


Hトレーニチ



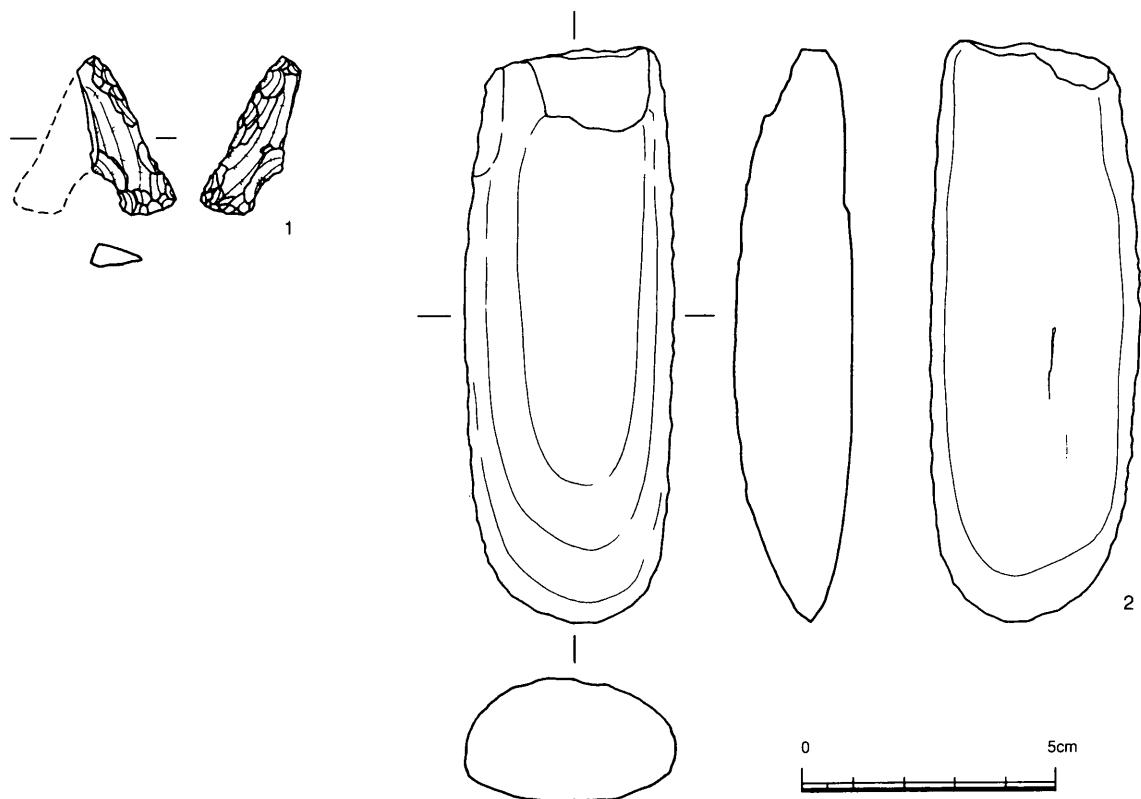
- 1 盛土
- 2 茶灰色土
- 3 淡黄灰色土
- 4 灰白色砂質土
- 5 地山：黄色礫混土
- 6 ピット1：灰色土（マンガン粒混）
- 7 ピット3：暗茶灰色砂質土

Lトレーニチ

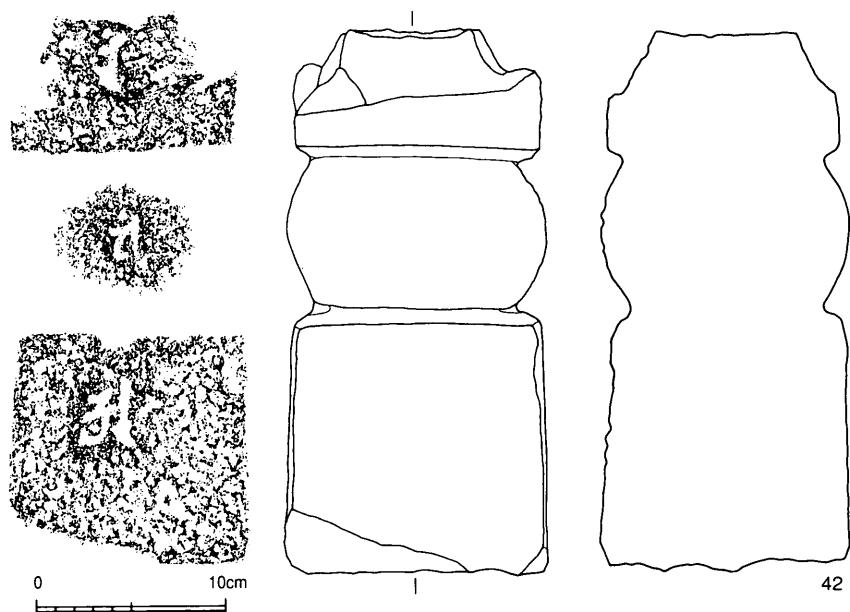


0 2m

第34図 箱作今池遺跡01-1区 Fトレーニチ・Hトレーニチ・Lトレーニチ平面図・断面図

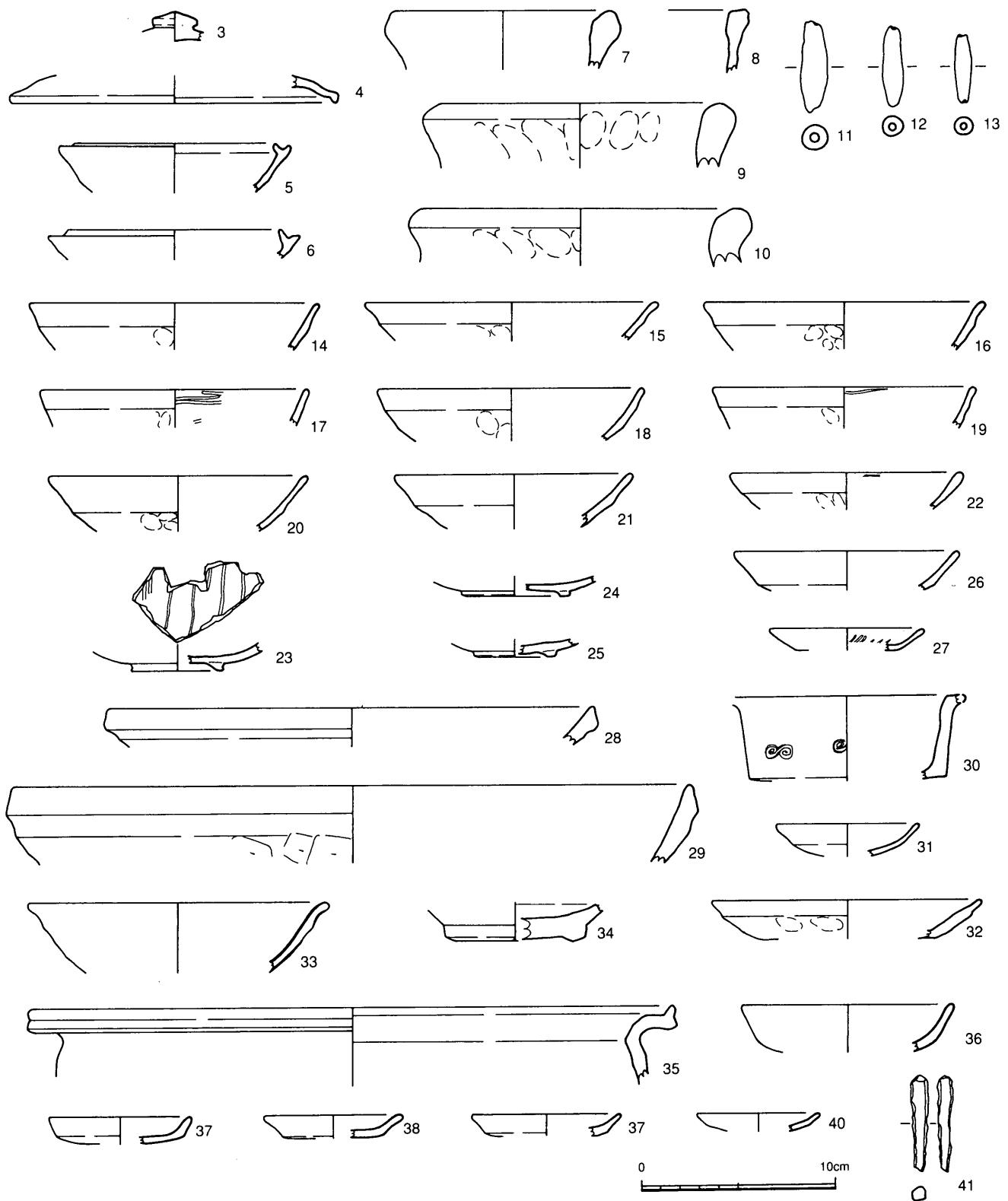


第35図 箱作今池遺跡01-1区 出土遺物（1）



第37図 箱作今池遺跡01-1区 出土遺物（3）

10は蛸壺、11～13は管状土錘で第2層から出土した。14～27は瓦器で、14～26は塊、27は皿、15・22・25・27は第2層から、17～20・26は第3層から、14・16・21・23・24は第4層から出土した。28～30は瓦質土器で、28・29は擂鉢、30は香炉で第2層から出土した。31・32は白土器で第2層から出土した。33は青磁の碗で第3層から出土した。34は白磁の高台部でIトレーナーの暗灰色砂質土から出土した。35～40は土師質土器で、35は羽釜でいわゆる紀伊型といわれるもので第3層から、36は塊で、37～40は皿で第2・3層から出土した。41は鉄釘で第3層から出土した。42は和泉砂岩製の五輪塔で調査区から出土した。



第36図 箱作今池遺跡01-1区 出土遺物 (2)

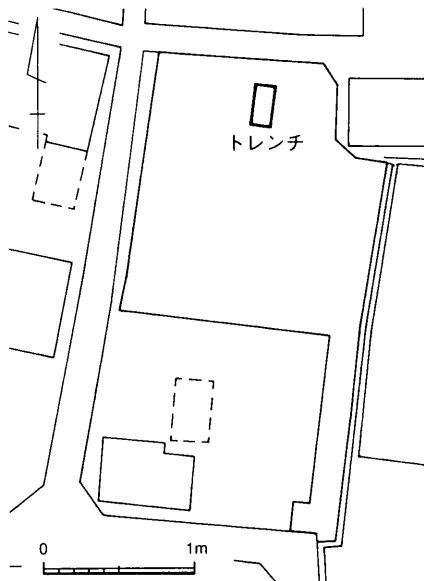
(2) 箱作今池遺跡01—2区

a. 調査の概要 (第32・38~40図)

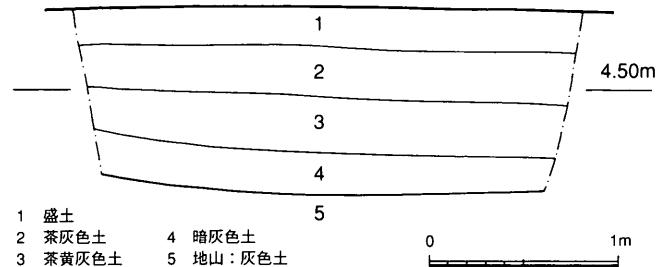
調査区は、箱作今池遺跡の北部で、海岸線より数十mに位置する。

調査は、調査地内北部に2.7m×1.4mのトレンチを設定し実施した。

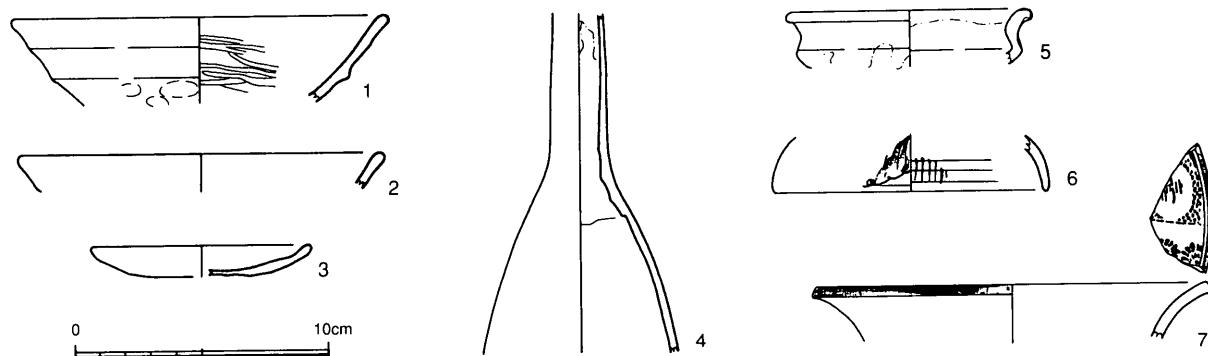
基本層序は、第1層盛土、第2層茶灰色土、第3層茶黃灰色土、第4層暗灰色土、第5層灰色土の地山であった。



第38図 箱作今池遺跡01-2区 トレンチ位置図



第39図 箱作今池遺跡01-2区 トレンチ西側断面図

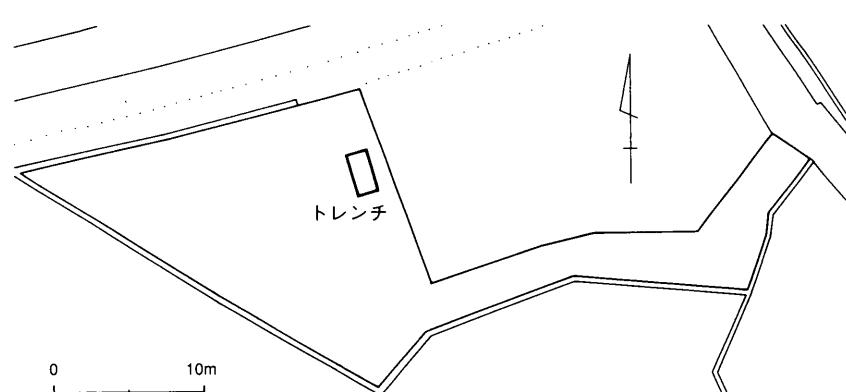


第40図 箱作今池遺跡01-2区 出土遺物

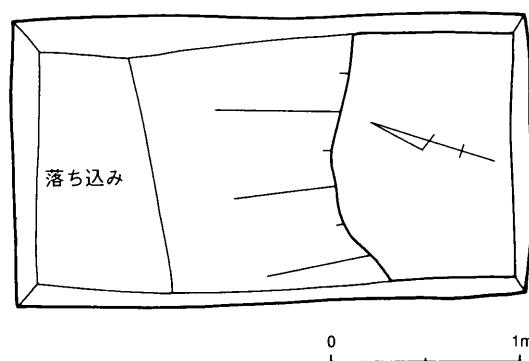
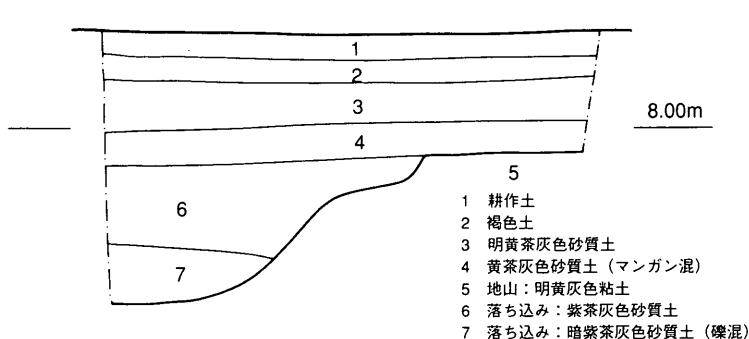
遺構は検出されなかったが、遺物は第2・3層から、瓦器、蜻蛉等の土師質土器、陶器、磁器、近世瓦、焼土塊が出土した。

b. 遺物（第40図）

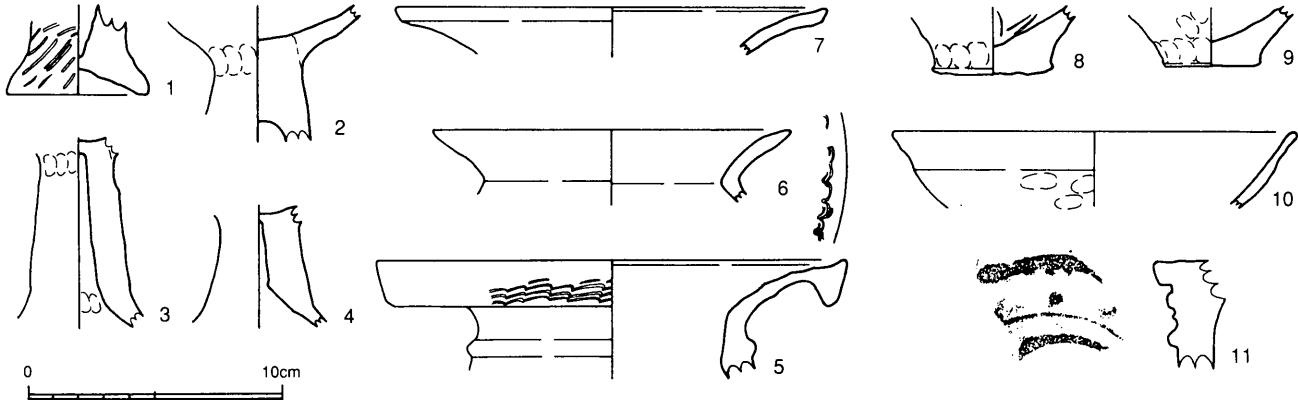
1～3は瓦器で1・2は碗、3は小皿、4・5は陶器で、4は瓶、5は香炉、6・7は磁器で、6は蓋、7は鉢である。1・2・4～6は第2層、3・7は第3層から出土した。



第41図 箱作西遺跡01-1区 トレンチ位置図



第42図 箱作西遺跡01-1区 トレンチ平面図・断面図



第43図 箱作西遺跡01-1区 出土遺物図

第7節 箱作西遺跡

(1) 箱作西遺跡 01—1区

a. 調査の概要 (第32・41~43図)

調査区は、箱作西遺跡の北部に位置する。調査は、調査地内西部に $2.7m \times 1.5m$ のトレンチを設定し実施した。基本層序は、第1層耕作土、第2層褐色土、第3層明黄茶灰色砂質土、第4層黄茶灰色砂質土、第5層明黄灰色粘土の地山であった。遺構は第5層上面で北へ向かう落ち込みを検出した。遺物は、第2層から須恵器、黒色土器、土師質土器、土師質蛸壺、焼土塊、第3層土師器、須恵器、土師質土器、土師質蛸壺、中世瓦（巴文軒丸瓦）、第4層からサヌカイト、土師器、須恵器、瓦器が出土した。

b. 遺構 (第42図)

—落ち込み—

第5層上面で、南から北の方向の落ち込みを検出した。深さ0.7mを測る。その埋土は、紫茶灰色砂質土、暗紫茶灰色砂質土であった。埋土からサヌカイト、弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、が出土した。

c. 遺物 (第43図)

1～9は弥生土器で落ち込みから出土し、1は製塩土器の脚部、2～4は高壺、5は壺で、6～9は甕である。10は瓦器の塊、11は軒丸瓦で、ともに第3層から出土した。

第8節 田山東遺跡

(1) 田山東 00—2区

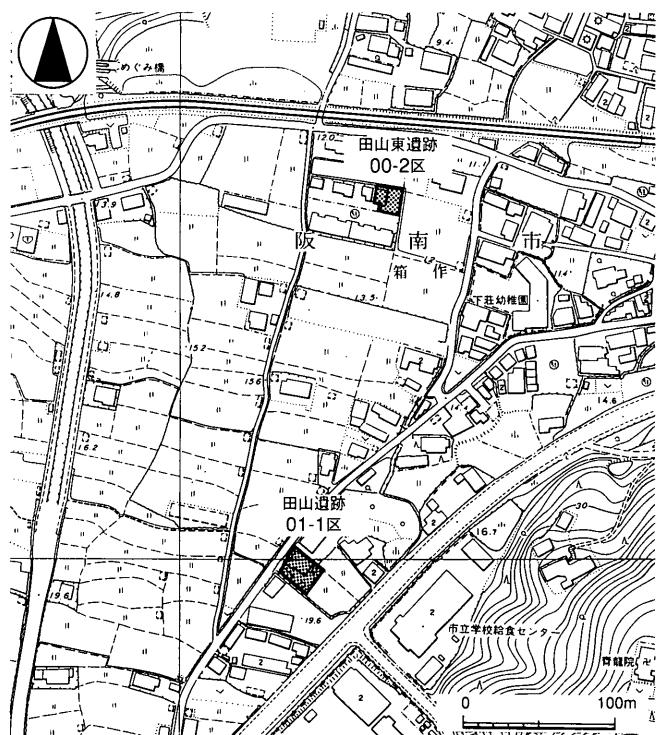
a. 調査の概要 (第44~47図)

調査地は、本遺跡の南部に位置する。

調査は、調査地内に $3.0m \times 1.5m$ のトレンチを設定し実施した。

基本層序は、第1層盛土、第2層耕作土、第3層褐色土、第4層淡茶灰色砂質土、第5層濃茶灰色土、第6層灰色土の地山であった。

遺構は土坑を検出した。遺物は第3層から



第44図 田山東・田山遺跡調査区位置図

土師質土器、第4・5層から土師器、須恵器、青磁、白磁、瓦器、土師質蛸壺、土師質管状土錘を検出した。

b. 遺構（第46図）

—土坑—

第5層上面で検出した。深さ34cmを測る。埋土は暗茶灰色砂質土で、遺物は検出されなかった。

c. 遺物（第47図）

1は青磁の碗の口縁部である。第4・5層から出土した。

第9節 田山遺跡

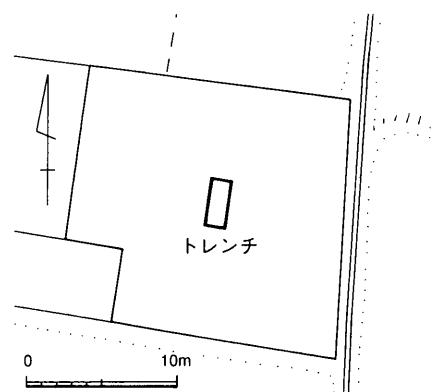
(1) 田山遺跡01-1区

a. 調査の概要（第44・48～50図）

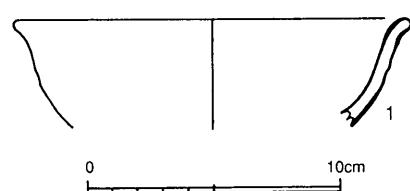
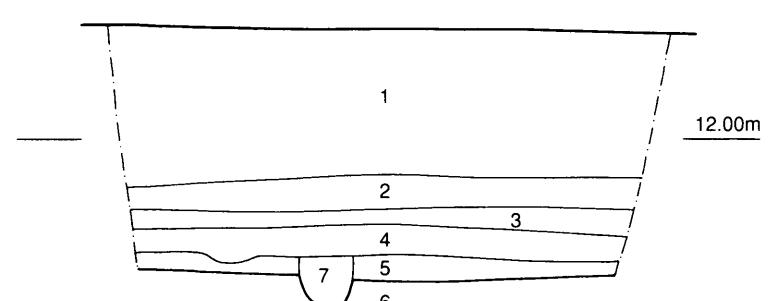
調査地は、田山遺跡の東部に位置する。調査は、調査区内に9.0m×5.5mのトレンチを設定し実施した。基本層序は、第1層耕作土、第2層床土、第3層淡灰色砂質土、第4層淡灰褐色砂質土、第5層淡橙灰色土、第6層橙灰色土の地山に至る。出土遺物から第2～5層は中世の遺物包含層と考えられる。

b. 遺構（第49図）

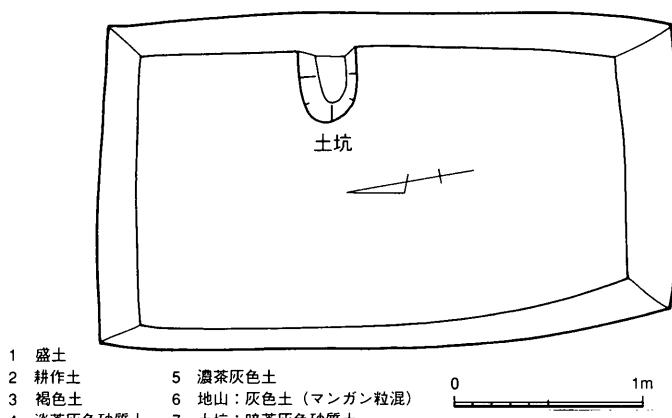
今回の調査では、第4層上面で溝、地山上面で落ち込みを検出した。どちらもトレンチの北東隅で検出しておおり、ほぼ同じ位置、肩の方向が一致しているが、先述したように検出面が異なり、断面観察においても両者の間に第5層の存在が明確に認められたことから別の遺構とした。



第45図 田山東遺跡00-2区
トレンチ位置図



第47図 田山東遺跡00-2区 出土遺物



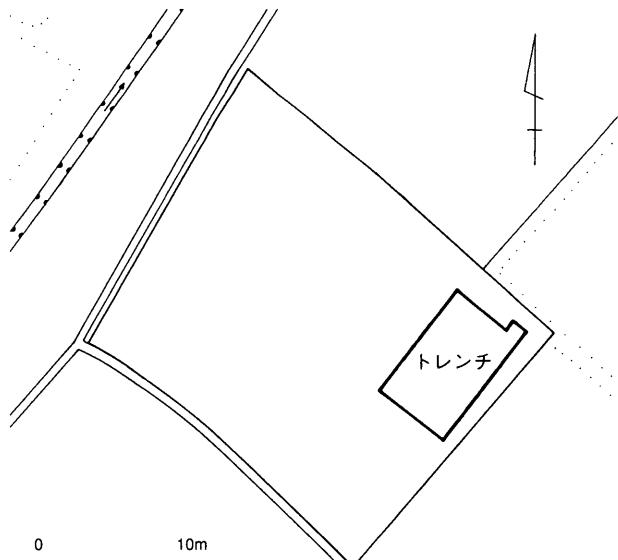
第46図 田山東遺跡00-2区 トレンチ平面図・断面図

一溝一

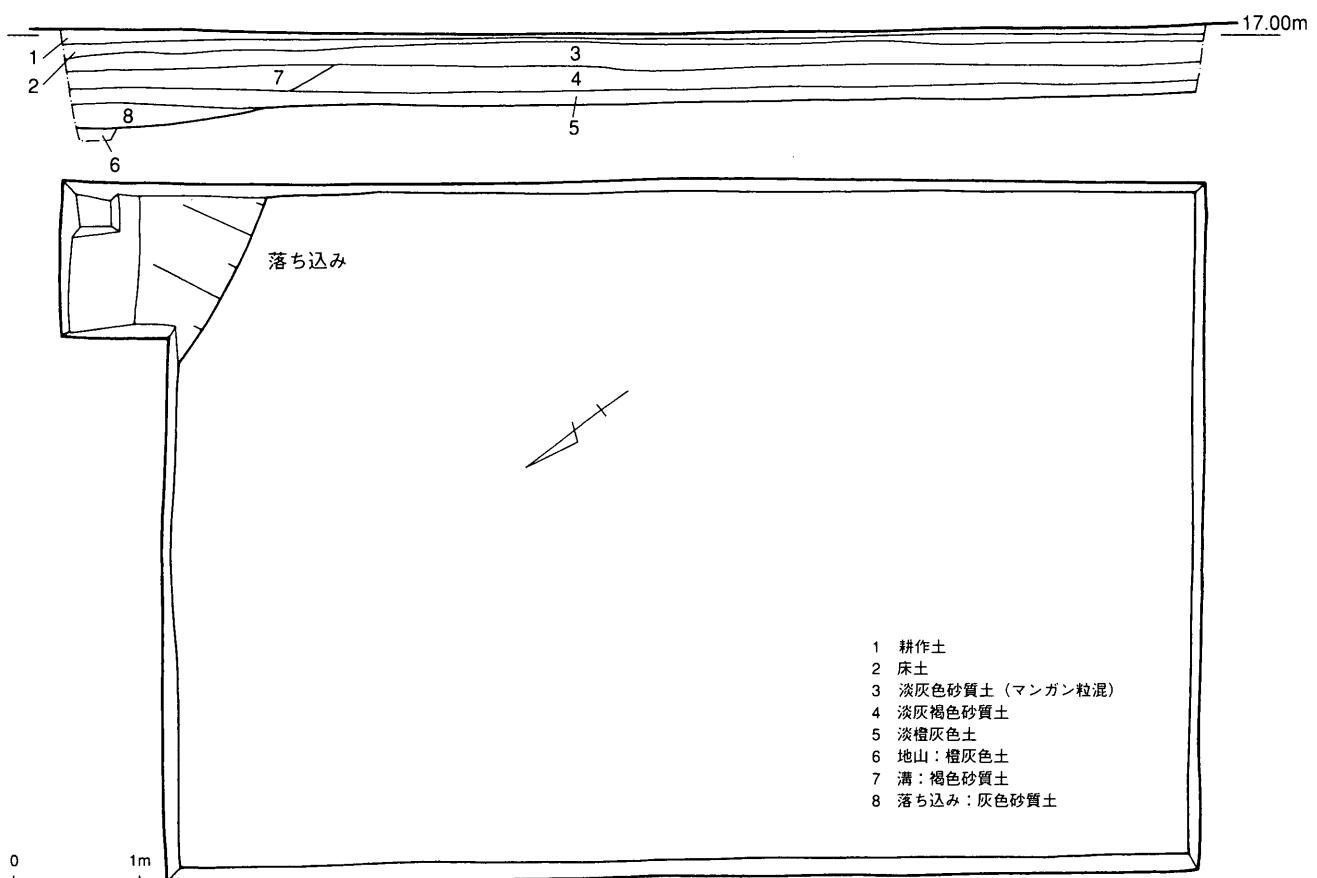
トレンチ北東隅の第4層上面で溝を検出した。片側の肩しか検出していないが、反対側の肩と考えられる北東方向へ緩やかに検出面が上がっていることから溝と判断した。溝は幅1.6m以上、深さ約20cm以上を測る。溝内から瓦質すり鉢が出土している。溝内からの出土遺物や遺構上面に堆積している第3層が中世期の層であることから中世の溝と考えられる。

一落ち込み一

トレンチ北東隅の地山上面において、北東方向に下がっている落ち込みを検出した。幅は1.5m以上、深さ約20cm以上を測る。遺構上面に堆積している第5層は中世期の層であることから、落ち込みは中世期以前の落ち込みであると考えられる。



第48図 田山遺跡01-1区 トレンチ位置図

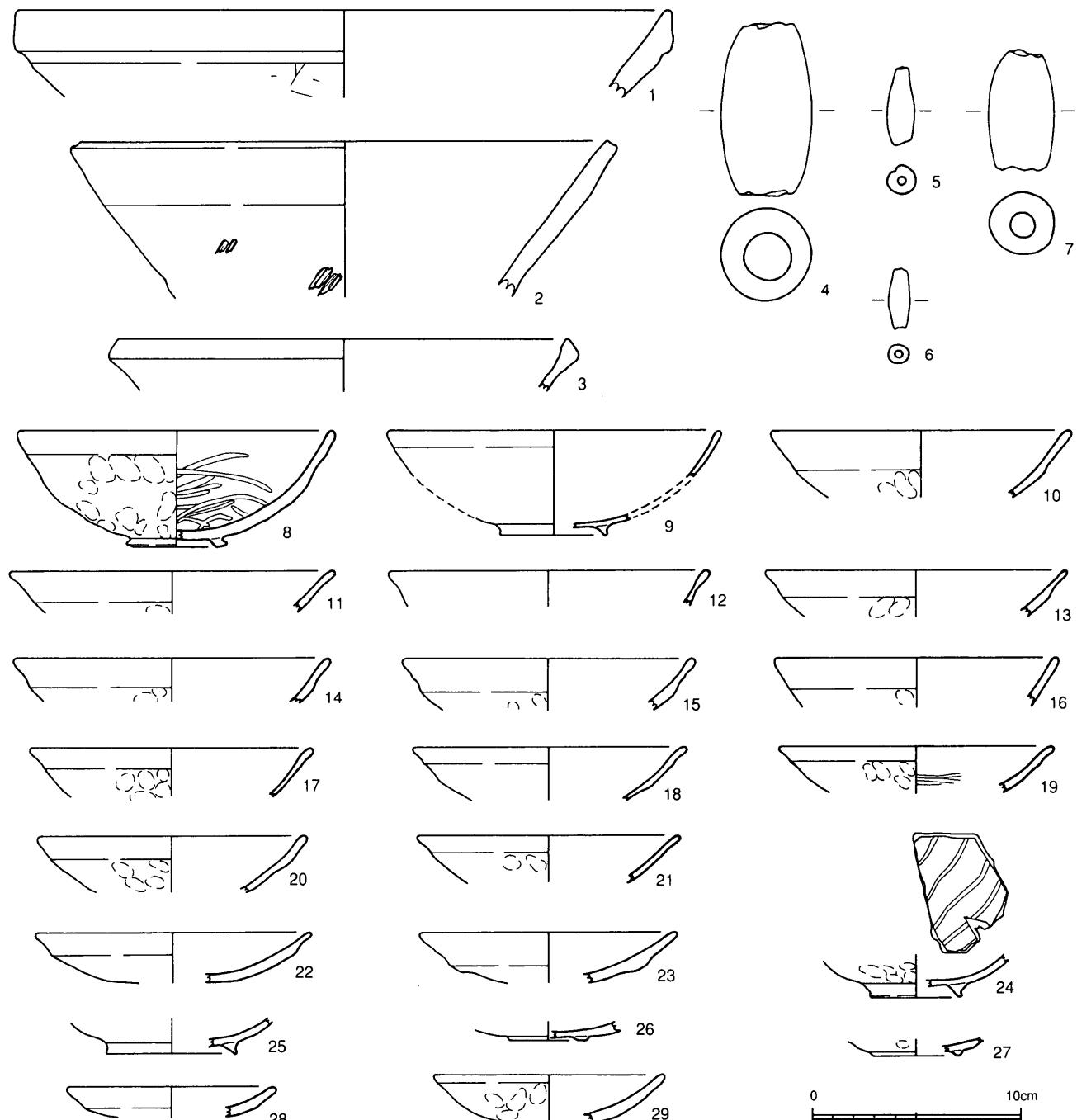


第49図 田山遺跡01-1区 トレンチ平面図・断面図

c. 遺物（第50図）

1は瓦質擂鉢である。2は須恵器鉢である。3は東播系須恵質捏鉢である。4～6は土師質管状土錐である。7は瓦質管状土錐である。8～27は瓦器塊である。28は瓦器皿である。29は白土器皿である。

第1層から20、第2層から9・11・15・17・23・26・29、第3層から2・3・5～7・13・14・19・21・28、第4層から4・8・10・12・16、溝から1が出土している。第2～5層から18・22・24・25・27が出土している。



第50図 田山遺跡01-1区 出土遺物

報 告 書 抄 錄

ふりがな	はんなんしまいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいよう							
書名	阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 17							
副書名								
卷次								
シリーズ名	阪南市埋蔵文化財報告							
シリーズ番号	29							
編著者名	三好義三・田中早苗・上野 仁・松本武志							
編集機関	阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課							
所在地	599-0292 大阪府阪南市尾崎町35-1 TEL 0724-71-5678							
発行年月日	2002年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村番号	北緯 。〃	東経 。〃	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
おざきかいがん 尾崎海岸	はんなんしおざきちょう 阪南市尾崎町	27232	65	342137	1351426	010307	3.8	住宅
同上	同上	27232	65	342140	1351430	010906	8.2	住宅
しもいで 下出	しもいで 阪南市下出	27232	66	342119	1351503	011130	3.8	住宅
うまがわ 馬川	同上	27232	39	342123	1351458	010411	18.0	住宅
同上	同上	27232	39	342124	1351457	010829	2.4	住宅
くろだみなみ 黒田南	とっとり 阪南市鳥取	27232	51	342053	1351427	011220	3.6	住宅
同上	とっとりなか 阪南市鳥取中	27232	51	342108	1351431	020208	12.8	住宅
じんこうじはすいけ 神光寺(蓮池)	いしだ 阪南市石田	27232	20	342033	1351452	010404~05	24.0	住宅
同上	同上	27232	20	342039	1351445	011011~12	7.0	住宅
同上	とっとり 阪南市鳥取	27232	20	342052	1351428	020109	4.5	住宅
はこつくりいまいけ 箱作今池	はこつくり 阪南市箱作	27232	24	342013	1351300	010419~0517	215.0	住宅
同上	同上	27232	24	342024	1351248	011121	3.8	住宅
はこつくりにし 箱作西	同上	27232	24	342012	1351245	010911	4.1	住宅
たやまひがし 田山東	同上	27232	58	342011	1351228	010205	4.5	住宅
たやま山	同上	27232	22	342003	1351245	010604~13	42.7	住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
尾崎海岸	散布地	不 明		土師質土器・土師質蛸壺・土師質管状土錘・陶磁器・近世瓦	
同 上	同 上	不 明		土師質土器・土師質蛸壺・土師質管状土錘・陶磁器・近世瓦	
下 出	同 上	不 明	土坑	土師質土器・陶器	
馬 川	同 上	不 明		土師質土器・陶器・磁器・近世瓦	
同 上	同 上	不 明		土師質土器・中世瓦・青磁・磁器・陶器・近世瓦	
黒田南	同 上	不 明			
同 上	同 上	不 明	溝	土師器・瓦器・土師質土器・陶器	
神光寺(蓮池)	同 上	不 明	溝	弥生土器・石包丁・瓦器・陶器	
同 上	同 上	不 明			
同 上	同 上	不 明			
箱作今池	同 上	不 明	ピット	土師器・須恵器・黒色土器・瓦器・土師質土器・瓦質土器・白土器・白磁・製塙土器・石斧・鉄釘	
同 上	同 上	不 明		瓦器・土師質土器・土師質蛸壺・陶器・焼土塊・近世瓦	
箱作西	同 上	不 明	落ち込み	弥生土器・土師器・須恵器・黒色土器・瓦器・土師質土器・土師質蛸壺・中世瓦・製塙土器・サヌカイト	
田山東	同 上	不 明	土坑	土師器・須恵器・青磁・白磁・瓦器・土師質蛸壺・土師質管状土錘	
田 山	同 上	不 明	溝・落ち込み	土師質管状土錘・瓦質土器・瓦質管状土錘・瓦器・白土器	

阪南市埋蔵文化財報告 XXIX

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 XVII

2002年3月

発行：阪南市教育委員会生涯学習推進課
大阪府阪南市尾崎町35の1

印刷者：西岡総合印刷株式会社
和歌山市吹屋町5丁目54